

## 第5章

### 資料



# 感染症発生動向調査事業定点一覧

内科定点(59)

(令和2年12月31日現在)

医療機関名	所在地	電話番号
坂本クリニック	鶴見区生麦5-6-2	505-0347
渡辺医院	鶴見区潮田町3-133-2	501-6457
橋本小児科	鶴見区下末吉1-24-15	581-5447
内科・小児科前広医院	鶴見区豊岡町10-7	571-2333
杉浦内科クリニック	神奈川区白楽100-5 白楽コミュニティプラザ3F	402-5650
藤江医院	神奈川区平川町26-2	491-8578
薩田内科クリニック	神奈川区菅田町2647 菅田町メディカルビル1F	477-4022
福澤クリニック	神奈川区片倉1-9-3 まるあビル1F	488-5123
鈴木内科クリニック	西区戸部町5-204	231-3355
スカイビル内科	西区高島2-19-12 スカイビル21F	461-1603
新妻クリニック	中区根岸町3-176-39	629-3585
川俣クリニック	中区麦田町4-107 ライフ山手2F	624-2960
室橋内科医院	中区本牧三之谷23-16	621-0139
鶴養医院	南区宮元町3-55	334-8753
よなみね内科クリニック	南区共進町1-34 森ビル1F	720-6008
あずま医院	南区清水ヶ丘1-21	231-7026
黒沢クリニック	港南区港南台7-42-30 サンライズ港南台2F201	833-9632
古家内科医院	港南区丸山台2-34-8	844-3080
宮川医院	港南区上大岡西1-12-17	842-0978
川村クリニック	保土ヶ谷区権太坂1-52-14	742-1010
篠崎医院	保土ヶ谷区上星川3-15-5	371-0038
浅野医院	保土ヶ谷区西谷3-23-33	371-3018
黒田医院	旭区柏町47-11	364-9772
大塚クリニック	旭区市沢町995-11 田口ビル1F	355-5377
若葉台クリニック	旭区若葉台1-3-116	921-3700
石田クリニック	旭区白根6-1-3	953-3308
遠藤内科	磯子区栗木1-28-27	773-7273
板垣医院	磯子区洋光台3-5-31	833-6141
富野医院	磯子区岡村6-5-35	752-3221
いとうファミリークリニック	金沢区谷津町378	783-5769
並木クリニック	金沢区並木2-9-4	788-0888
桑原内科クリニック	金沢区六浦5-21-3-106	791-5751
中野こどもクリニック	港北区富士塚1-1-1	434-6500
服部クリニック	港北区大倉山1-28-3	545-0001
横山クリニック	港北区大倉山4-5-1 大倉山ハイム1-101	531-1575
石井内科医院	港北区日吉本町6-26-5	561-4704
椎橋医院	港北区大豆戸町200 菊名レジデンスiapラザ101号	401-9092
野村医院	緑区いぶき野8-15	981-2568
みなみ台小に科	緑区長津田みなみ台1-20-9	982-7041
田村内科クリニック	緑区十日市場町804-2 ホームストップ十日市場西館101	989-6388
西川内科医院	青葉区あざみ野1-26-10	901-1241

医療機関名	所在地	電話番号
徳岡クリニック	青葉区荏田町477	911-6000
清水内科医院	青葉区青葉台1-28-2	981-7231
えなみクリニック	青葉区桂台2-27-21	962-9980
斉木クリニック	都筑区高山1-45 沖商事ビル102	941-0082
葛が谷つばさクリニック	都筑区葛が谷4-14 ヘルデセゾン1F	945-2772
小林クリニック	都筑区すみれが丘38-31	592-0041
よしい内科クリニック	戸塚区汲沢1-10-46 踊場メディカルセンター2F	861-2511
内科小児科むかひら医院	戸塚区汲沢1-39-24	861-4160
半田医院	戸塚区平戸2-30-8	821-1235
おかもと内科皮膚科クリニック	戸塚区川上町84-1 ケアハウスゆうあい4階B号室	822-3333
江口医院	栄区飯島町1413	891-0067
米田クリニック	栄区桂台北10-22	895-1300
小林内科クリニック	泉区中田南2-2-2	801-2551
柏木医院	泉区和泉中央南1-37-7	802-8253
かねむらクリニック	泉区中田北2-6-14 アイイチビルⅡ 1F-B	805-6685
まいえ内科	瀬谷区橋戸2-31-3 グランデュールプラザ2F	301-8561
三ツ境ライフクリニック渡部内科	瀬谷区三ツ境2-1 三ツ境ライフB館	360-3558
本郷クリニック	瀬谷区本郷3-20-21	304-2017

#### 小児科定点(94)

医療機関名	所在地	電話番号
古谷小児科	鶴見区潮田町2-113-1	501-9160
宮川医院	鶴見区北寺尾6-7-19	585-5505
さくら診療所	鶴見区矢向5-4-34	581-6070
川端こどもクリニック	鶴見区生麦5-21-16	505-6670
石井医院	鶴見区生麦5-8-44	501-5531
渡部クリニック	鶴見区鶴見中央3-19-11 コロファン横浜鶴見1F	506-3657
優美子供クリニック	鶴見区駒岡5-5-12 武田メディカルビルディング4階	576-6226
大口東総合病院	神奈川区入江2-19-1	401-2411
くぼた小児科	神奈川区新子安1-2-4 オルトヨコハマビジネスセンター1F	438-0291
まつうら小児科・内科	神奈川区三ツ沢中町8-6	321-3171
鈴木小児科医院	神奈川区神大寺4-8-15	491-4510
大西医院	神奈川区反町4-27-16	324-2121
村瀬クリニック	神奈川区西神奈川1-12-7 東神奈川イーストアーケビル1F	320-3306
富田こどもクリニック	西区藤棚町1-58-6	242-1543
西戸部こどもクリニック	西区西戸部町2-174	260-1495
青木小児科医院	西区境之谷73	231-4144
向山小児科医院	中区本牧三之谷22-1	623-7311
かめのはしクリニック	中区石川町3-108-1	226-2818
寺道小児科医院	中区本牧町1-178	623-1021
小菅医院	中区石川町1-11-2 小菅医療ビル4F	651-6177
宇南山小児科医院	南区永田北3-36-5	714-1036
ゆいこどもクリニック	南区弘明寺町字前田144-1 水谷ビル2F 203号室	730-4152
弓削医院	南区睦町1-7-5	731-2653

医療機関名	所在地	電話番号
みやじ小児科クリニック	南区六ツ川3-86-5	716-1011
相原アレルギー科・小児科クリニック	南区高根町3-17 スーク大通り公園参番館201号	261-0737
小島小児科医院	港南区東永谷2-2-20	823-1121
竹田こどもクリニック	港南区上永谷2-11-1 いずみプラザ上永谷112	846-1088
原口小児科医院	港南区丸山台3-41-1	845-6622
ふくお小児科アレルギー科	港南区港南台1-48-7	833-7737
上大岡こどもクリニック	港南区上大岡西1-15-1 カミオ404-2	882-0810
星川小児クリニック	保土ヶ谷区星川2-4-1 星川SFビル4F	336-2260
おざき小児科	保土ヶ谷区仏向町121-2	348-4141
宮川内科小児科医院	保土ヶ谷区岩間町1-4-1	331-2478
新桜クリニック	保土ヶ谷区新桜ヶ丘2-24-12-2F	352-4482
北原医院	保土ヶ谷区上菅田町59	381-1622
琴寄医院	旭区鶴ヶ峰1-13-2	373-6752
はせがわこどもクリニック	旭区笹野台1-1-36 城田ビル1F	360-0755
サンクリニック小児科	旭区柏町127 相鉄南万騎が原第4ビル102	366-6821
川島医院	旭区上白根町891 西ひかりが丘団地18-5-102	952-2039
二俣川こどもクリニック	旭区二俣川2-50-14 コフレ二俣川7F	366-0505
育愛小児科医院	旭区中白根1-10-15	951-1152
矢崎小児科	磯子区磯子2-13-13	751-4378
さいとう小児科	磯子区岡村7-20-14	752-4882
住田こどもクリニック	磯子区下町8-16 1F	753-7151
バニーこども診療所	磯子区洋光台6-19-43	830-0767
浅井こどもクリニック	金沢区釜利谷東2-14-11 高野第2ビル2F	785-1152
かわなこどもクリニック	金沢区瀬戸19-14 金沢八景金井ビル3F	350-6277
大久保医院	金沢区六浦南2-42-18	788-6565
高橋こどもクリニック	金沢区富岡東5-18-1 長谷川メディカルプラザ富岡2F-G	775-3111
ふじわら小児科	金沢区富岡西1-48-12	773-6333
あべこどもクリニック	港北区箕輪町2-15-22	566-2112
小机診療所	港北区小机町1451	471-9696
大川小児クリニック	港北区綱島東2-12-19 福島ビル1F	546-1071
カンガルーこどもクリニック	港北区新羽町2080-1 メディカルモールプラザ2F	309-0755
斉藤小児科心とからだのクリニック	港北区高田東1-25-3	531-3574
マリアこどもクリニック	港北区岸根町408-123	430-5415
日吉こどもクリニック	港北区日吉本町1-9-26 MKハイム1F	560-1850
シブヤチャイルドクリニック	港北区大倉山3-56-22 ナビウス大倉山1F	542-6915
一色こどもクリニック	緑区白山1-1-3 ダイアパレス鴨居1F	933-0061
ちはら小児クリニック	緑区霧が丘3-2-9	923-1226
森の子キッズクリニック	緑区中山5-29-18	929-5501
さかたに小児科	緑区台村町309-1 土井ビル1F	930-3110
ぽっけキッズクリニック	緑区長津田みなみ台6-24-13	988-5330
太田こどもクリニック	青葉区あざみ野1-8-2 あざみ野メディカルプラザ3F	909-5335
渡辺医院	青葉区奈良町1670-44	962-8126
松岡医院	青葉区しらとり台20-13	981-6093
あざがみクリニック	青葉区美しが丘西3-65-6	909-0092

医療機関名	所在地	電話番号
はやし小児科医院	青葉区松風台13-5 ライムライト松風台3	983-3254
有本小児科内科	青葉区美しが丘2-20-18 トムス有本101	901-6870
はなわ小児科内科クリニック	青葉区藤が丘1-28-3 ウイスタリア28-2F	972-1515
水野クリニック	都筑区南山田町4258	593-4040
大山クリニック	都筑区茅ヶ崎南5-1-10 ノブール茅ヶ崎	941-7171
山下小児科クリニック	都筑区北山田3-18-15	593-9770
サウスウッドこどもクリニック	都筑区茅ヶ崎中央6-1 サウスウッド3F	942-7700
キッズクリニック鴨居	都筑区池辺町4035-1 ららぽーと横浜1101-6	929-0085
マサカ内科小児科	戸塚区品濃町523-3 マサカビル1F	823-7866
しばた医院	戸塚区戸塚町2810-8 土屋クリニックビル1F	865-6666
小雀小児科医院	戸塚区小雀町1123-2	852-2353
小泉小児クリニック	戸塚区汲沢8-5-5	871-5566
ドリーム小児科	戸塚区俣野町1404-8	851-3661
海のこどもクリニック	戸塚区川上町91-1 モレ東戸塚3F	390-0841
うえの小児科クリニック	戸塚区吉田町944-5 KAWARA102	869-0311
吉田こどもクリニック	栄区野七里1-4-22	891-8888
若竹クリニック	栄区元大橋1-27-5	891-6900
内山小児科医院	栄区笠間2-31-13	892-4090
つちだこどもクリニック	栄区本郷台3-1-7	893-4176
あいかわこどもクリニック	泉区中田北2-6-14 アイイチビルⅡ1F	805-6605
渡辺こどもクリニック	泉区西が岡1-13-6	813-1618
ふくだ小児クリニック	泉区上飯田町938-1 いずみ中央クリニックビル3F	805-1020
はっとり小児科	泉区和泉中央南1-10-37 立場AMANOビル2F	804-4153
瀬谷こどもクリニック	瀬谷区中央1-10 カサ・デ・パティオ2F	304-0045
池部小児科・アレルギー科	瀬谷区三ツ境21-10 サニーハイツ三ツ境1F	360-6080
なごみクリニック	瀬谷区二ツ橋町489-45	360-8183
ひかりこどもクリニック	瀬谷区相沢2-60-6	306-1066

## 眼科定点(22)

医療機関名	所在地	電話番号
ちぐさ眼科医院	鶴見区鶴見中央4-16-3 トミヤビル4F	502-0222
豊岡アイクリニック	鶴見区寺谷1-3-2 山田メディカルビル2F	571-5861
矢島眼科医院	神奈川区片倉5-1-1 ARビル3F	482-1950
まつい眼科医院	西区戸部本町51-10	322-6249
秋山眼科医院	中区尾上町3-28	641-9361
吉野町眼科	南区山王町4-26-3 ストークビル秋山1F	260-6726
池袋眼科医院	港南区上大岡西1-18-5 ミオカM202	842-0380
和田町眼科クリニック	保土ヶ谷区和田1-13-21 工藤ビル2F	337-2823
塚原眼科医院	旭区二俣川1-5-38 FSビル2F	363-1102
洋光台眼科クリニック	磯子区洋光台3-13-5-110	835-0143
おいかわ眼科	金沢区能見台通8-1-2F	784-8558
つなしま眼科	港北区綱島西2-13-9 ウィンズ綱島ビル1F	531-7132
ひよし眼科	港北区日吉本町1-4-18 平林ビル1F	562-5331
宮崎眼科	緑区長津田みなみ台4-7-1 アピタ長津田店1F	989-1805

医療機関名	所在地	電話番号
眼科中井医院	青葉区美しが丘2-14-7	905-5777
スマイル眼科クリニック	青葉区青葉台1-6-12カンセムビル4F	988-4912
ニュータウン北眼科	都筑区中川中央1-31-1-4123 モザイクモール港北4F	482-3334
井上眼科	戸塚区柏尾町1016-2	822-2520
とつか眼科	戸塚区戸塚町16-5 ARKビル3F	861-6620
永井眼科医院	栄区本郷台3-1-3	893-5114
緑園都市眼科後藤クリニック	泉区緑園4-1-2 相鉄ライフビル2F	813-2277
高橋眼科クリニック	瀬谷区橋戸2-31-3 グランデュールプラザ2F	302-6337

#### 性感染症定点(29)

医療機関名	所在地	電話番号
鶴見クリニック	鶴見区豊岡町6-9 サンワイスビル3F	584-8233
熊切産婦人科	鶴見区豊岡町10-2	571-0211
原産科婦人科クリニック	神奈川区六角橋1-30-4	401-9511
コシ産婦人科医院	神奈川区白楽71-8	432-2525
横浜相鉄ビル皮膚泌尿器科医院	西区北幸1-11-5 相鉄KSビル2F	311-3208
石橋泌尿器科皮膚科クリニック	中区長者町9-166-1 ソフィアココハマ1F	263-0820
由利泌尿器科クリニック	南区井土ヶ谷下町213 第2江洋ビル4F	713-6311
みながわ泌尿器科クリニック	港南区上大岡西3-9-2 ルス・デ・ルナ1F	848-2118
木下クリニック	港南区丸山台3-11-15	843-4310
増田泌尿器科	保土ヶ谷区帷子町1-30-1 クホタビル2F	340-2667
浅井皮膚科クリニック	保土ヶ谷区帷子町1-14	334-3412
二俣川レディースクリニック	旭区本村町101-3 第7ハレス桜咲	360-2875
希望が丘いずみクリニック	旭区中希望が丘236-19	391-0567
たけだ泌尿器科クリニック	磯子区杉田1-17-1 プラサSUGITA201	771-3055
小野医院	金沢区洲崎町5-41	701-8771
金沢文庫レディースクリニック	金沢区谷津町153-3	780-5513
新横浜母と子の病院	港北区鳥山町650-1	472-2911
大倉山レディースクリニック	港北区大倉山3-4-31 ヒルズ・カモ1F	545-5251
マザーズ高田産医院	港北区高田西2-5-27	595-4103
あまかす医院	緑区白山1-1-3	931-2404
レディースクリニック服部	青葉区美しが丘5-3-2	902-0303
ワキタ産婦人科	青葉区藤が丘2-6-1	973-7081
聖マリアクリニックセンター北	都筑区中川中央1-29-24 アビテノール3C	914-6355
やすこレディースクリニック	都筑区茅ヶ崎中央17-26 ビクトリアセンター南201	948-2567
おかもと内科皮膚科クリニック	戸塚区川上町84-1 ケアハウスゆうあい4階B号室	822-3333
坂西医院泌尿器科	戸塚区矢部町645-10	862-5677
オカノ泌尿器科皮膚科医院	栄区笠間5-20-19 斉藤ビル2F	891-5860
泌尿器科あべクリニック	泉区中田西1-1-27 ネクストアイ3F	805-5808
まきずみ泌尿器科	瀬谷区瀬谷3-1-29 瀬谷メディカルプラザ2F	300-3711

#### 基幹病院定点(4)

医療機関名	所在地	電話番号
横浜市立市民病院	神奈川区三ツ沢西町1-1	316-4580

医療機関名	所在地	電話番号
済生会横浜市南部病院	港南区港南台3-2-10	832-1111
聖マリアンナ医科大学 横浜市西部病院	旭区矢指町1197-1	366-1111
昭和大学藤が丘病院	青葉区藤が丘1-30	971-1151

#### 病原体定点(15)

医療機関名	所在地	電話番号
古谷小児科（小児科）	鶴見区潮田町2-113-1	501-9160
横浜市立市民病院（基幹）	神奈川区三ツ沢西町1-1	316-4580
室橋内科医院（内科）	中区本牧三之谷23-16	621-0139
とみい眼科（眼科）	中区伊勢佐木町6-143-2 ITビル1F	261-1103
片山こどもクリニック（小児科）	港南区上大岡西2-3-6 ビルディングアルダ2F	844-7577
済生会横浜市南部病院（基幹）	港南区港南台3-2-10	832-1111
聖マリアンナ医科大学 横浜市西部病院（基幹）	旭区矢指町1197-1	366-1111
さいとう小児科（小児科）	磯子区岡村7-20-14	752-4882
いとうファミリークリニック（内科）	金沢区谷津町378	783-5769
石井内科医院（内科）	港北区日吉本町6-26-5	561-4704
あべこどもクリニック（小児科）	港北区箕輪町2-15-22	566-2112
有本小児科内科（小児科）	青葉区美しが丘2-20-18 トムス有本101	901-6870
はやし小児科医院（小児科）	青葉区松風台13-5 ライムライト松風台3	983-3254
昭和大学藤が丘病院（基幹）	青葉区藤が丘1-30	971-1151
内科小児科むかひら医院（内科）	戸塚区汲沢1-39-24	861-4160

#### 疑似症定点(10)

医療機関名	所在地	電話番号
済生会横浜市東部病院	鶴見区下末吉3-6-1	576-3000
横浜市立市民病院	神奈川区三ツ沢西町1-1	316-4580
けいゆう病院	西区みなとみらい3-7-3	221-8181
横浜市立みなと赤十字病院	中区新山下3-12-1	628-6100
横浜市立大学附属 市民総合医療センター	南区浦舟町4-57	261-5656
済生会横浜市南部病院	港南区港南台3-2-10	832-1111
聖マリアンナ医科大学 横浜市西部病院	旭区矢指町1197-1	366-1111
横浜市立大学附属病院	金沢区福浦3-9	787-2800
横浜労災病院	港北区小机町3211	474-8111
昭和大学藤が丘病院	青葉区藤が丘1-30	971-1151



# 横浜市感染症発生動向調査事業実施要綱

制 定 平成 12 年 11 月 27 日衛 感第 340 号（局長決裁）

最近改正 令和 2 年 7 月 21 日健健安第 5912 号（局長決裁）

## 第 1 趣旨

「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」の施行に伴い、厚生労働省が定めた「感染症発生動向調査事業実施要綱」（以下「国要綱」という。）を基本に、横浜市において、感染症発生動向調査事業を実施するために必要な事項を定める。

## 第 2 対象感染症

本事業の対象とする感染症は次のとおりとする。

### 1 全数把握の対象

#### 一類感染症

(1) エボラ出血熱、(2) クリミア・コンゴ出血熱、(3) 痘そう、(4) 南米出血熱、(5) ペスト、(6) マールブルグ病、(7) ラッサ熱

#### 二類感染症

(8) 急性灰白髄炎、(9) 結核、(10) ジフテリア、(11) 重症急性呼吸器症候群（病原体がベータコロナウイルス属 S A R S コロナウイルスであるものに限る。）、(12) 中東呼吸器症候群（病原体がベータコロナウイルス属 M E R S コロナウイルスであるものに限る。）、(13) 鳥インフルエンザ（H5N1）、(14) 鳥インフルエンザ（H7N9）

#### 三類感染症

(15) コレラ、(16) 細菌性赤痢、(17) 腸管出血性大腸菌感染症、(18) 腸チフス、(19) パラチフス

#### 四類感染症

(20) E 型肝炎、(21) ウエストナイル熱（ウエストナイル脳炎を含む。）、(22) A 型肝炎、(23) エキノコックス症、(24) 黄熱、(25) オウム病、(26) オムスク出血熱、(27) 回帰熱、(28) キャサナル森林病、(29) Q 熱、(30) 狂犬病、(31) コクシジオイデス症、(32) サル痘、(33) ジカウイルス感染症、(34) 重症熱性血小板減少症候群（病原体がフレボウイルス属 S F T S ウイルスであるものに限る。）、(35) 腎症候性出血熱、(36) 西部ウマ脳炎、(37) ダニ媒介脳炎、(38) 炭疽、(39) チクングニア熱、(40) つつが虫病、(41) デング熱、(42) 東部ウマ脳炎、(43) 鳥インフルエンザ（H5N1 及び H7N9 を除く。）、(44) ニパウイルス感染症、(45) 日本紅斑熱、(46) 日本脳炎、(47) ハンタウイルス肺症候群、(48) B ウイルス病、(49) 鼻疽、(50) ブルセラ症、(51) ベネズエラウマ脳炎、(52) ヘンドラウイルス感染症、(53) 発しんチフス、(54) ボツリヌス症、(55) マラリア、(56) 野兎病、(57) ライム病、(58) リッサウイルス感染症、(59) リフトバレー熱、(60) 類鼻疽、(61) レジオネラ症、(62) レプトスピラ症、(63) ロッキー山紅斑熱

## 五類感染症（全数）

(64)アメーバ赤痢、(65)ウイルス性肝炎（E型肝炎及びA型肝炎を除く。）、(66)カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症、(67)急性弛緩性麻痺（ポリオを除く。）、(68)急性脳炎（ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。）、(69)クリプトスポリジウム症、(70)クロイツフェルト・ヤコブ病、(71)劇症型溶血性レンサ球菌感染症、(72)後天性免疫不全症候群 (73)ジアルジア症、(74)侵襲性インフルエンザ菌感染症、(75)侵襲性髄膜炎菌感染症、(76)侵襲性肺炎球菌感染症、(77)水痘（患者が入院を要すると認められるものに限る。）、(78)先天性風しん症候群、(79)梅毒、(80)播種性クリプトコックス症、(81)破傷風、(82)バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症、(83)バンコマイシン耐性腸球菌感染症、(84)百日咳、(85)風しん、(86)麻しん、(87)薬剤耐性アシネトバクター感染症

## 新型インフルエンザ等感染症

(112)新型インフルエンザ、(113)再興型インフルエンザ

## 指定感染症

(114)新型コロナウイルス感染症（病原体がベータコロナウイルス属のコロナウイルス（令和2年1月に、中華人民共和国から世界保健機関に対して、人に伝染する能力を有することが新たに報告されたものに限る。）であるものに限る。）

## 2 定点把握の対象

### 五類感染症（定点）

(88)RSウイルス感染症、(89)咽頭結膜熱、(90)A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、(91)感染性胃腸炎、(92)水痘、(93)手足口病、(94)伝染性紅斑、(95)突発性発しん、(96)ヘルパンギーナ、(97)流行性耳下腺炎、(98)インフルエンザ（鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。）、(99)急性出血性結膜炎、(100)流行性角結膜炎、(101)性器クラミジア感染症、(102)性器ヘルペスウイルス感染症、(103)尖圭コンジローマ、(104)淋菌感染症、(105)クラミジア肺炎（オウム病を除く。）、(106)細菌性髄膜炎（インフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を原因として同定された場合を除く。）、(107)ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、(108)マイコプラズマ肺炎、(109)無菌性髄膜炎、(110)メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症、(111)薬剤耐性緑膿菌感染症

## 法第14条第1項に規定する厚生労働省令で定める疑似症

(115)発熱、呼吸器症状、発しん、消化器症状又は神経症状その他感染症を疑わせるような症状のうち、医師が一般的に認められている医学的知見に基づき、集中治療その他これに準ずるものが必要であり、かつ、直ちに特定の感染症と診断することができないと判断したもの。

### 3 オンラインシステムによる積極的疫学調査結果の報告の対象

#### 二類感染症

(13)鳥インフルエンザ (H5N1)

## 第3 実施主体

実施主体は、健康福祉局健康安全課（以下「健康福祉局」という。）、衛生研究所及び各区福祉保健センター（以下「福祉保健センター」という。）とする。

## 第4 実施体制の整備

### 1 横浜市感染症情報センター

地方感染症情報センターとして横浜市感染症情報センター（以下「感染症情報センター」という。）を、衛生研究所感染症・疫学情報課内に設置する。感染症情報センターは、横浜市内における患者情報、疑似症情報及び病原体情報を収集・分析し、健康福祉局及び福祉保健センターへ報告するとともに、全国情報と併せて、これらを速やかに医師会等の関係機関に提供・公開する。

### 2 指定届出機関及び指定提出機関（定点）

(1) 健康福祉局は、定点把握対象の感染症について、患者情報及び疑似症情報を収集するため、法第14条第1項に規定する指定届出機関として、患者定点及び疑似症定点をあらかじめ選定し、神奈川県へ進達する。

(2) 健康福祉局は、定点把握対象の五類感染症について、患者の検体又は当該感染症の病原体（以下、「検体等」という。）を収集するため、病原体定点をあらかじめ選定し、神奈川県へ進達する。なお、法施行規則第7条の2に規定する五類感染症については、法第14条の2第1項に規定する指定提出機関として、病原体定点を選定し、神奈川県へ進達する。

### 3 横浜市感染症発生動向調査委員会

横浜市内における感染症に関する情報の収集、分析の効果的・効率的な運用を図るため、疫学等の専門家、福祉保健センター及び衛生研究所の代表、医師会の代表等からなる横浜市感染症発生動向調査委員会（以下「感染症委員会」という。）を置く。

感染症委員会の事務局は感染症情報センター及び健康福祉局とし、感染症委員会の運営については、横浜市感染症発生動向調査委員会設置運営要綱に定める。

### 4 検査施設

横浜市内における本事業に係る検体等の検査については、横浜市衛生研究所の検査施設（以下、「衛生研究所」という。）において、実施する。衛生研究所は、「検査施設における病原体等の検査の業務管理要領」（健感発 1117 第2号平成27年11月27日厚生労働省健康局結核感染症課長通知。以下「病原体検査要領」という。）に基づき検査を実施し、検査の信頼性確保に努めることとする。

また、健康福祉局は、横浜市内における検査が適切に実施されるよう施設間の役割を調整

する。

## 第5 事業の実施

### 1 一類感染症、二類感染症、三類感染症、四類感染症、新型インフルエンザ等感染症、指定感染症（第2の(114)を除く）及び全数把握対象の五類感染症

#### (1) 調査単位及び実施方法

##### ア 診断した医師

国要綱に定めるとおりとする。

##### イ 検体等を所持している医療機関等

福祉保健センター等から当該患者の病原体検査のための検体等の提供について、依頼又は命令を受けた場合にあっては、検体等について、別記様式1「一類感染症、二類感染症、三類感染症、四類感染症、五類感染症、新型インフルエンザ等感染症及び指定感染症検査票（病原体）」（以下、別記様式1という。）の検査票を添付して提供する。

##### ウ 福祉保健センター

- (ア) 届出を受けた福祉保健センターは、速やかに国が定める届出基準を参照し、届出の内容が合致するかどうか点検を行う。記載もれや不明な点は、届出を行った医師に確認し、必要に応じて補記・補正を行い、発生届を感染症情報センター及び健康福祉局に送付する。
- (イ) 福祉保健センターは、病原体検査が必要と判断した場合は、検体等を所持している医療機関等に対して、病原体検査のための検体等の衛生研究所への提供について、別記様式1を添付して依頼等する。なお、病原体検査の必要性の判断及び実施等について、必要に応じて衛生研究所及び健康福祉局と協議する。
- (ウ) 福祉保健センターは、検体等の提供を受けた場合には、別記様式1を添付して、衛生研究所へ検査を依頼するものとする。
- (エ) 福祉保健センターは、カ(ア)により衛生研究所から検体等の検査結果の通知があった場合は、診断した医師に別記様式1等により速やかに送付する。
- (オ) なお、迅速な対応が必要な疾患については、健康福祉局と協議の上、対応する。

##### エ 健康福祉局

- (ア) 健康福祉局は、福祉保健センターからウ(ア)による送付があった場合は、直ちに、感染症情報センターと連絡もれがないか等、確認する。
- (イ) 健康福祉局は、届出を受けた感染症にかかる発生状況や感染症情報センターから提供のあった患者情報及び病原体情報等について、必要に応じ、市内の関係機関に情報提供し連携を図る。
- (ウ) 感染症情報センターが収集、分析した患者情報及び病原体情報を感染症対策に利用し、関係機関との連携・調整を行う。
- (エ) 緊急の場合及び国から対応を求められた場合においては、直接必要な情報収集を行うとともに、国及び都道府県等とも連携の上、迅速な対応を行う。

- (ウ) 迅速な対応が必要と保健所長が定める疾患については、福祉保健センターが行う  
ウ(イ)から(エ)までの対応は、健康福祉局が行う。

#### オ 感染症情報センター

- (ア) 感染症情報センターは、福祉保健センターからウ(ア)による送付があった場合は、直ちに、届出情報の確認を行い、届出内容を感染症発生動向調査システムに入力する。
- (イ) 感染症情報センターは、横浜市域内の全ての患者情報及び病原体情報を収集、分析するとともに、その結果を週報（月単位の場合は月報）等として公表される都道府県情報、全国情報と併せて、健康福祉局、福祉保健センター、指定医療機関その他の関係医療機関、医師会、教育委員会等の関係機関に提供・公開する。

#### カ 衛生研究所

- (ア) 衛生研究所は、別記様式 1 及び検体等が送付された場合にあっては、別に定める病原体検査要領に基づき当該検体等を検査し、その結果を福祉保健センターを経由して診断した医師に通知するとともに、別記様式 1 により福祉保健センター、健康福祉局、感染症情報センターに送付する。また、感染症発生動向調査に必要な項目をコンピュータ・オンラインシステムにより、速やかに中央感染症情報センターへ報告する。
- (イ) 検査のうち、衛生研究所において実施することが困難なものについては、必要に応じて、他の都道府県又は国立感染症研究所に協力を依頼する。
- (ウ) 衛生研究所は、患者が一類感染症と診断されている場合、横浜市域を超えた感染症の集団発生があった場合等の緊急の場合及び国から提出を求められた場合にあっては、検体等を国立感染症研究所に送付する。

## 2 新型コロナウイルス感染症（第 2 の（114）に限る）

### (1) 調査単位及び実施方法

#### ア 診断した医師

国要綱に定めるとおりとする。

#### イ 検体を所持している医療機関等

福祉保健センター等から当該患者の病原体検査のための検体等の提供について、依頼又は命令を受けた場合にあっては、検体等について、別記様式 1 「一類感染症、二類感染症、三類感染症、四類感染症、五類感染症、新型インフルエンザ等感染症及び指定感染症検査票（病原体）」（以下、別記様式 1 という。）の検査票を添付して提供する。

#### ウ 福祉保健センター

(ア) 届出を受けた福祉保健センターは、速やかに国が定める届出基準を参照し、届出の内容が合致するかどうか点検を行う。記載もれや不明な点は、届出を行った医師に確認し、必要に応じて補記・補正を行い、発生届を感染症情報センター及び健康福祉局に送

付する。

(イ) 福祉保健センターは、病原体検査が必要と判断した場合は、検体等を所持している医療機関等に対して、病原体検査のための検体等の衛生研究所への提供について、別記様式1を添付して依頼等する。なお、病原体検査の必要性の判断及び実施等について、必要に応じて衛生研究所及び健康福祉局と協議する。

(ウ) 福祉保健センターは、検体等の提供を受けた場合には、別記様式1を添付して、衛生研究所へ検査を依頼するものとする。

(エ) 福祉保健センターは、カ(ア)により衛生研究所から検体等の検査結果の通知があった場合は、診断した医師に別記様式1等により速やかに送付する。

(オ) なお、迅速な対応が必要な場合は、健康福祉局と協議の上、対応する。

#### エ 健康福祉局

(ア) 健康福祉局は、福祉保健センターからウ(ア)による送付があった場合は、直ちに、感染症情報センターと連絡もれがないか等、確認する。

(イ) 健康福祉局は、届出を受けた感染症にかかる発生状況や感染症情報センターから提供のあった患者情報及び病原体情報等について、必要に応じ、市内の関係機関に情報提供し連携を図る。

(ウ) 感染症情報センターが収集、分析した患者情報及び病原体情報を感染症対策に利用し、関係機関との連携・調整を行う。

(エ) 緊急の場合及び国から対応を求められた場合においては、直接必要な情報収集を行うとともに、国及び都道府県等とも連携の上、迅速な対応を行う。

(オ) 迅速な対応が必要と保健所長が判断した場合は、福祉保健センターが行うウ(イ)から(エ)までの対応は、健康福祉局が行う。

#### オ 感染症情報センター

(ア) 感染症情報センターは、福祉保健センターからウ(ア)による送付があった場合は、直ちに、届出情報の確認を行い、届出内容をHER-SYSに入力する。また、診断した医師がHER-SYSに入力した情報を確認する。

(イ) 感染症情報センターは、横浜市域内の全ての患者情報及び病原体情報を収集、分析するとともに、その結果を週報(月単位の場合は月報)等として公表される都道府県情報、全国情報と併せて、健康福祉局、福祉保健センター、指定医療機関その他の関係医療機関、医師会、教育委員会等の関係機関に提供・公開する。

#### カ 衛生研究所

(ア) 衛生研究所は、別記様式1及び検体等が送付された場合にあっては、別に定める病原体検査要領に基づき当該検体等を検査し、その結果を福祉保健センターを経由して診断した医師に通知するとともに、別記様式1により福祉保健センター、健康福祉局、感染症情報センターに送付する。

(イ) 検査のうち、衛生研究所において実施することが困難なものについては、必要に応じて、他の都道府県又は国立感染症研究所に協力を依頼する。

(ウ) 衛生研究所は、横浜市域を超えた感染症の集団発生があった場合等の緊急の場合及び国から提出を求められた場合にあっては、検体等を国立感染症研究所に送付する。

キ 病原体検査を行政検査として委託されている医療機関

病原体検査を行政検査として委託されている医療機関は、健康安全課等に必要な情報共有を行うこと。

### 3 定点把握対象の五類感染症

#### (1) 対象とする感染症の状態

国要綱に定めるとおりとする。

#### (2) 定点の選定

##### ア 患者定点

定点把握対象の五類感染症の発生状況を把握するため、健康福祉局は、横浜市全体の感染症の発生状況を把握できるよう考慮し、医師会等の協力を得て、行政区ごとに医療機関の中から患者定点を選定する。

なお、患者定点の種類、その対象疾患及び定点数については、行政区人口を保健所管内人口とみなして国要綱に定めるとおりとする。

##### イ 病原体定点

病原体の分離等の検査情報を収集するため、健康福祉局は、医師会等の協力を得て原則として、患者定点として選定された医療機関の中から病原体定点を選定する。また、定点の選定に当たっては、人口及び医療機関の分布等を勘案して、できるだけ横浜市全体の感染症の発生状況を把握できるように考慮する。

なお、病原体定点の種類、その対象疾患及び定点数については、保健所管内人口について国要綱に定めるとおりとする。

#### (3) 調査単位等

国要綱に定めるとおりとする。

#### (4) 実施方法

##### ア 患者定点

(ア) 患者定点として選定された医療機関は、速やかな情報提供を図る趣旨から、調査単位の期間の診療時において、国が定める報告基準により、患者発生状況の把握を行う。

(イ) 2の(ア)により選定された定点把握対象の指定医療機関においては、国が定める基準及び様式に従い、それぞれ調査単位の患者発生状況等を記載する。

(ウ) (イ)の患者発生状況等の情報については、指定された方法により福祉保健センター又は感染症情報センターへ報告する。

## イ 病原体定点

- (ア) 病原体定点として選定された医療機関は、必要に応じて病原体検査のために検体等採取する。
- (イ) 病原体定点は、検体等について、別記様式2「病原体定点からの検査依頼書」(以下、「別記様式2」という。)を添えて、速やかに衛生研究所へ送付する。
- (ウ) (2)のイにより選定された小児科病原体定点においては、第2の(86)から(96)について、調査単位ごとに、概ね4症例からそれぞれ少なくとも1種類~~を~~を送付する。
- (エ) (2)のイにより選定されたインフルエンザ病原体定点においては、第2の(97)に掲げるインフルエンザ(インフルエンザ様疾患を含む。)について、調査単位ごとに、少なくとも1検体を採取し、衛生研究所と協議のもと、健康福祉局の定める単位ごとに送付するものとする。

## ウ 検体等を所持している医療機関等

保健所等から当該患者の病原体検査のための検体等の提供の依頼を受けた場合に当たっては、検体等について、保健所に協力し、別記様式1を添付して提供する。

## エ 福祉保健センター

- (ア) 福祉保健センターは、ア(ウ)により定点把握対象の指定医療機関から得られた患者情報を、調査単位が週単位の場合は調査対象の週の翌週の火曜日までに、月単位の場合は調査対象月の翌月の3日までに、感染症情報センターへ送付し、併せて、対象感染症についての集団発生その他特記すべき情報についても、感染症情報センター及び健康福祉局へ報告する。また、病原体検査が必要と判断した場合は、検体等を所持している医療機関等に対して、病原体検査のための検体等の提供について、別記様式1を添付して依頼するものとする。なお、病原体検査の必要性の判断及び実施等について、必要に応じて衛生研究所及び健康福祉局と協議する。
- (イ) 福祉保健センターは、検体等の提供を受けた場合には、別記様式1を添付して衛生研究所へ検査を依頼するものとする。
- (ウ) 福祉保健センターは、カ(ア)により衛生研究所から検体等の検査結果の通知があった場合は、診断した医師に別記様式1により速やかに送付する。

## オ 健康福祉局

健康福祉局は、感染症情報センターから情報提供のあった患者情報及び病原体情報について、必要に応じ、市内の関係機関に情報提供し連携を図る。

また、感染症情報センターが収集、分析した患者情報及び病原体情報を対策に利用し、関係機関との連携・調整を行う。なお、緊急の場合及び国から対応を求められた場合においては、直接必要な情報を収集するとともに、国及び他の都道府県等とも連携の上、迅速な対応を行う。

## カ 感染症情報センター

- (ア) 感染症情報センターは、患者定点又は福祉保健センターから患者情報の報告があ



り次第、届出情報の確認を行い、感染症発生動向調査システムに入力する。

- (イ) 感染症情報センターは、横浜市域内の全ての患者情報及び病原体情報を収集、分析するとともに、その結果を週報（月単位の場合は月報）等として公表される都道府県情報、全国情報と併せて、健康福祉局、福祉保健センター、指定医療機関その他の関係医療機関、医師会、教育委員会等の関係機関に提供・公開する。

#### キ 衛生研究所

- (ア) 衛生研究所は、イ(イ)により別記様式2及び検体等が送付された場合にあつては、病原体検査要領に基づき当該検体等を検査し、その結果を病原体情報として、別記様式2により病原体定点に通知するとともに、健康福祉局及び感染症情報センターに送付する。感染症発生動向調査に必要な病原体情報をコンピュータ・オンラインシステムにより、速やかに中央感染症情報センターへ報告する。
- (イ) 衛生研究所は、エ(イ)により別記様式1及び検体等が送付された場合にあつては、病原体検査要領に基づき当該検体等を検査し、その結果を福祉保健センターを経由して、診断した医師に通知するとともに、別記様式1により福祉保健センター、健康福祉局、感染症情報センターに送付する。また、感染症発生動向調査に必要な項目をコンピュータ・オンラインシステムにより、速やかに中央感染症情報センターへ報告する。
- (ウ) 検査のうち、衛生研究所において実施することが困難なものについては、必要に応じて、他の都道府県等又は国立感染症研究所に協力を依頼する。
- (エ) 衛生研究所は、横浜市域を超えた感染症の集団発生があつた場合等の緊急の場合及び国から提出を求められた場合にあつては、検体等を国立感染症研究所に送付する。

#### 4 法第14条第1項に規定する厚生労働省令で定める疑似症

##### (1) 対象とする疑似症の状態

国要綱に定めるとおりとする。

##### (2) 疑似症定点の選定

疑似症の発生状況を把握するため、健康福祉局は、横浜市全体の感染症の発生状況を把握できるよう考慮し、医師会等の協力を得て、医療機関の中から疑似症定点を選定する。

##### (3) 実施方法

###### ア 疑似症定点

- (ア) 疑似症定点として選定された医療機関は、速やかな情報提供を図る趣旨から、診療時において、国が定める届出基準により、直ちに疑似症発生状況の把握を行う。
- (イ) (2)により選定された定点把握の対象の指定届出機関においては、国が定める基準に従い、直ちに疑似症発生状況等を記載する。なお、当該疑似症の届出については、原則として汎用サーベイランスシステムへの入力により実施することとする。
- (ウ) (イ)の届出に当たっては法施行規則第7条に従い行う。

## イ 健康福祉局

健康福祉局は、疑似症の発生状況等を把握し、指定届出機関、指定提出機関その他の関係医療機関、医師会、教育委員会等の関係機関に発生状況等を提供し連携を図る。

また、感染症情報センターが収集、分析した疑似症情報を感染症対策に利用し、関係機関との連携・調整を行う。なお、緊急の場合及び国から対応を求められた場合においては、直接必要な情報を収集するとともに、国及び都道府県とも連携の上、迅速な対応を行う。

## ウ 感染症情報センター

(ア) 感染症情報センターは、疑似症定点において汎用サーベイランスシステムへの入力を実施することができない場合は、当該疑似症定点から得られた疑似症情報を、直ちに、汎用サーベイランスシステムに入力するものとする。

また、対象疑似症についての集団発生その他特記すべき情報についても、健康福祉局および中央感染症情報センターへ報告する。

(イ) 感染症情報センターは、横浜市内の全ての疑似症情報を収集、分析するとともに、その結果を週報等として公表される都道府県情報、全国情報と併せて、健康福祉局、福祉保健センター、指定医療機関その他の関係医療機関、医師会、教育委員会等の関係機関に提供・公開する。

## 5 オンラインシステムによる積極的疫学調査結果の報告の実施方法

### (1) 福祉保健センター

鳥インフルエンザ（H5N1）に係る積極的疫学調査を実施した福祉保健センターは、国の定める基準に従い、関係書類を健康福祉局及び感染症情報センターに送付する。医療機関から検体等が提出される場合には、感染症情報センターに連絡した上で、医療機関から検体等を受け取り、衛生研究所へ搬入する。

### (2) 感染症情報センター

ア 感染症情報センターは、(1)により得られた情報を、直ちに疑い症例調査支援システムに入力する。

イ 医療機関より検体等が提出される場合には、疑い症例調査支援システムが発行する検査依頼票を打ち出し、衛生研究所に送付する。

### (3) 衛生研究所

ア 衛生研究所は、検査依頼票及び検体等が送付された場合にあつては、当該検体等を別に定める病原体検査要領に基づき検査し、その内容を直ちに感染症情報センターに送付する。

イ 鳥インフルエンザ（H5N1）に係る積極的疫学調査の結果を厚生労働省に報告する場合

にあつては、法施行規則第9条第2項に従い、検体等を国立感染症研究所に送付する。検体等を送付する場合には、(2)イにより感染症情報センターから送付された検査依頼票を添付する。

## 第6 その他

- 1 感染症発生動向調査のために取り扱うこととなった検体等について、感染症の発生及びまん延防止策の構築、公衆衛生の向上のために使用されるものであり、それ以外目的に用いてはならない。また、検体採取の際には、その使用目的について説明の上、できるだけ本人等に同意をとることが望ましい。なお、上記に掲げる目的以外の研究に使用する場合は、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」等の別に定める規定に従い行うものとする。
- 2 本要綱に定める事項以外の内容については、必要に応じて健康福祉局長が定めることとする。

### 附 則

(施行期日)

- 1 この実施要綱は、平成15年11月5日から施行する。

### 附 則

この要綱は、平成18年4月1日から施行する。

### 附 則

この要綱は、平成18年6月12日から施行する。

### 附 則

この要綱は、平成19年4月1日から施行する。

### 附 則

(施行期日)

- 1 この要綱は、平成20年1月1日から施行する。

(経過措置)

- 2 改正前の要綱の規定により調製した帳票で現に残存するものについては、当分の間、必要な所を訂正した上、引き続きこれを使用することができる。

### 附 則

(施行期日)

- 1 この要綱は、平成20年5月12日から施行する。

(経過措置)

- 2 改正前の要綱の規定により調製した帳票で現に残存するものについては、当分の間、必要な所を訂正した上、引き続きこれを使用することができる。

附 則

(施行期日)

1 この要綱は、平成 23 年 2 月 1 日から施行する。

(経過措置)

2 改正前の要綱の規定により調製した帳票で現に残存するものについては、当分の間、必要なか所を訂正した上、引き続きこれを使用することができる。

附 則

(施行期日)

1 この要綱は、平成 25 年 4 月 1 日から施行する。

(経過措置)

2 改正前の要綱の規定により調製した帳票で現に残存するものについては、当分の間、必要なか所を訂正した上、引き続きこれを使用することができる。

附 則

(施行期日)

1 この要綱は、平成 25 年 10 月 14 日から施行する。

(経過措置)

2 改正前の要綱の規定により調製した帳票で現に残存するものについては、当分の間、必要なか所を訂正した上、引き続きこれを使用することができる。

附 則

(施行期日)

1 この要綱は、平成 26 年 9 月 19 日から施行する。

(経過措置)

2 改正前の要綱の規定により調製した帳票で現に残存するものについては、当分の間、必要なか所を訂正した上、引き続きこれを使用することができる。

附 則

(施行期日)

1 この要綱は、平成 27 年 1 月 21 日から施行する。

(経過措置)

2 改正前の要綱の規定により調製した帳票で現に残存するものについては、当分の間、必要なか所を訂正した上、引き続きこれを使用することができる。

附 則

(施行期日)

1 この要綱は、平成 28 年 4 月 1 日から施行する。ただし、第 2 の 1 の対象感染症に係る改正については、平成 28 年 2 月 15 日から適用する。

(経過措置)

- 2 改正前の要綱の規定により調製した帳票で現に残存するものについては、当分の間、必要な所を訂正した上、引き続きこれを使用することができる。

附 則

(施行期日)

この要綱は、平成 30 年 1 月 1 日から施行する。

附 則

(施行期日)

- 1 この要綱は、平成 30 年 4 月 1 日から施行する。

(経過措置)

- 2 改正前の要綱の規定により調製した帳票は、当面の間、必要な所を訂正した上、引き続きこれを使用することができる。

附 則

(施行期日)

この要綱は、平成 30 年 5 月 1 日から施行する。

附 則

(施行期日)

この要綱は、平成 31 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

(施行期日)

この要綱は、令和 2 年 2 月 1 日から施行する。

附 則

(施行期日)

この要綱は、令和 2 年 7 月 21 日から施行する。

## 別記様式一覧表

別記様式 1 一類感染症、二類感染症、三類感染症、四類感染症、五類感染症、新型インフルエンザ等感染症及び指定感染症検査票

別記様式 2 病原体定点からの検査依頼書 (3 枚複写式)

(医療機関控)

(衛生研究所控)

(医療機関あて検査結果通知用)

# 横浜市感染症発生動向調査委員会設置運営要綱

最近改正 平成 23 年 5 月 24 日 健健安第 304 号（局長決裁）

（設置）

第 1 条 横浜市内における感染症に関する情報の収集、分析の効果的、効率的な運用を図るため、横浜市感染症発生動向調査委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

（所掌事務）

第 2 条 委員会は、感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律（平成 10 年法律第 114 号。以下「法」という。）第 16 条の規定に基づき、法第 12 条から第 15 条までの規定により収集した感染症に関する情報について分析を行い、感染症の予防のための情報を積極的に公表する。

（組織）

第 3 条 委員会は、委員 6 人以上 10 人以下をもって組織する。

2 委員は、次の各号に掲げる者のうちから健康福祉局長が任命する。

- (1) 学識経験者
- (2) 横浜市医師会を代表する者
- (3) 福祉保健センター及び衛生研究所の代表

（委員の任期）

第 4 条 委員の任期は、3 年とする。ただし、委員が欠けた場合における補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 委員は、再任されることができる。

（委員長及び副委員長）

第 5 条 委員会に、委員長及び副委員長 1 人を置く。

2 委員長及び副委員長は、委員の互選によって定める。

3 委員長は、委員会を代表し、会務を総理し、会議の議長となる。

4 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるとき、又は委員長が欠けたときは、その職務を代理する。

（招集）

第 6 条 委員会の会議は、委員長が毎月 1 回、その他必要に応じて招集する。

（議事の運営）

第 7 条 委員会の会議は、委員の半数以上の出席がなければ開くことができない。ただし、緊急その他やむを得ない理由があるときはこの限りでない。

(関係者の出席等)

第8条 委員長は、委員会において必要があると認めるときは、関係者の出席を求めてその意見若しくは説明を聴き、又は関係者から必要な資料の提出を求めることができる。

(庶務)

第9条 委員会の庶務は、健康福祉局において処理する。

(その他)

第10条 本要綱に定める他、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が委員会に諮って定める。

附 則

(施行期日)

1 この要綱は、平成14年1月1日から施行する。

(経過措置)

2 この要綱の施行後最初の委員会の会議は、衛生局長が招集する。

附 則

この要綱は、平成18年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成23年5月24日から施行する。



# 令和2年1月期 横浜市感染症発生動向調査委員会報告

## 《今月のトピックス》

- インフルエンザの流行注意報が発令されています。
- A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の報告が増加しています。
- 感染性胃腸炎の報告が増加しています。

### ◇ 全数把握の対象

#### 〈1月期に報告された全数把握疾患〉

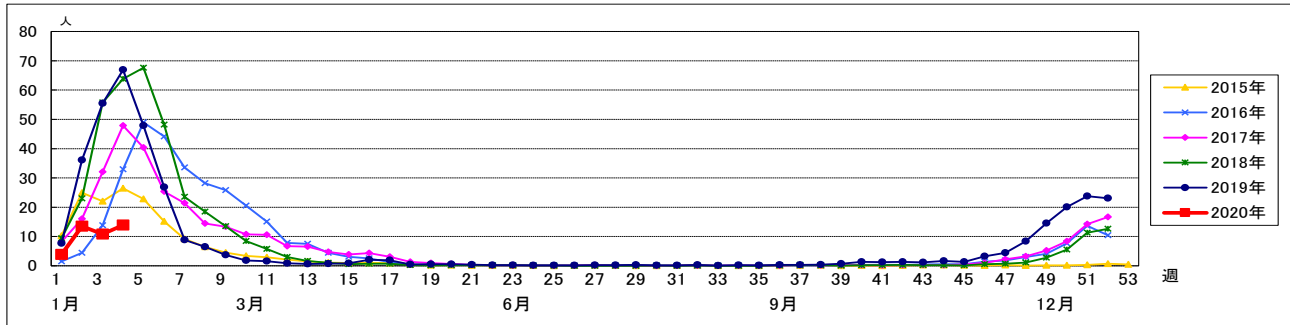
細菌性赤痢	1件	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1件
腸管出血性大腸菌感染症	1件	後天性免疫不全症候群(HIV感染症含む)	1件
E型肝炎	3件	侵襲性インフルエンザ菌感染症	2件
A型肝炎	1件	侵襲性肺炎球菌感染症	11件
マラリア	1件	水痘(入院例に限る)	2件
レジオネラ症	2件	梅毒	10件
アメーバ赤痢	1件	百日咳	6件
ウイルス性肝炎	1件	風しん	3件
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	2件	麻しん	1件
急性脳炎	4件	-	-

- 細菌性赤痢:国内での経口感染と推定されるSonnei(D群)の報告が1件ありました。
- 腸管出血性大腸菌感染症:O103(無症状病原体保有者)の報告が1件ありました。
- E型肝炎:経口感染と推定される報告が3件ありました。
- A型肝炎:性的接触(詳細不明)による感染と推定される報告が1件ありました。
- マラリア:ギニアでの蚊からの感染と推定される熱帯熱マラリアの報告が1件ありました。
- レジオネラ症:肺炎型2件の報告があり、感染経路等不明でした。
- アメーバ赤痢:1件の報告があり、感染経路等不明でした。
- ウイルス性肝炎:B型肝炎の報告が1件ありました。
- カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症:2件の報告があり、感染経路等不明でした。
- 急性脳炎:10歳未満の報告が3件(病原体はインフルエンザAが2件、不明が1件)、10歳代の報告が1件(病原体はインフルエンザA)ありました。
- 劇症型溶血性レンサ球菌感染症: G群の報告が1件ありました。
- 後天性免疫不全症候群(HIV感染症含む):AIDSの報告が1件(男性、同性間性的接触)ありました。
- 侵襲性インフルエンザ菌感染症:70歳代の報告が1件、80歳代の報告が1件ありました。
- 侵襲性肺炎球菌感染症:10歳未満の報告が3件(ワクチン接種あり2件、不明1件)、50歳代の報告が1件(ワクチン接種不明)、70歳代の報告が3件(ワクチン接種なし1件、不明2件)、80歳以上の報告が4件(ワクチン接種なし1件、不明3件)ありました。
- 水痘(入院例に限る):70歳代および80歳代の検査診断例の報告が1件ずつありました。
- 梅毒:10件の報告(無症状病原体保有者5件、早期顕症梅毒Ⅰ期3件、早期顕症梅毒Ⅱ期2件)がありました。感染地域はいずれも国内で、感染経路は性的接触が9件(異性間が5件、同性間が2件、性別不詳が2件)、不明が1件でした。性別は男性6件、女性4件でした。
- 百日咳:10歳未満が2件(ワクチン接種あり)、10歳代が2件(ワクチン接種あり)、40歳代が1件(ワクチン接種不明)、70歳代が1件(ワクチン接種不明)の報告がありました。
- 風しん:検査診断例の報告が3件ありました。30歳代女性1件(ワクチン接種1回あり)、50歳代男性1件(ワクチン接種不明)、60歳代男性1件(ワクチン接種不明)でした。
- 麻しん:検査診断例1件(10歳未満、ワクチン接種1回あり)が報告されています。

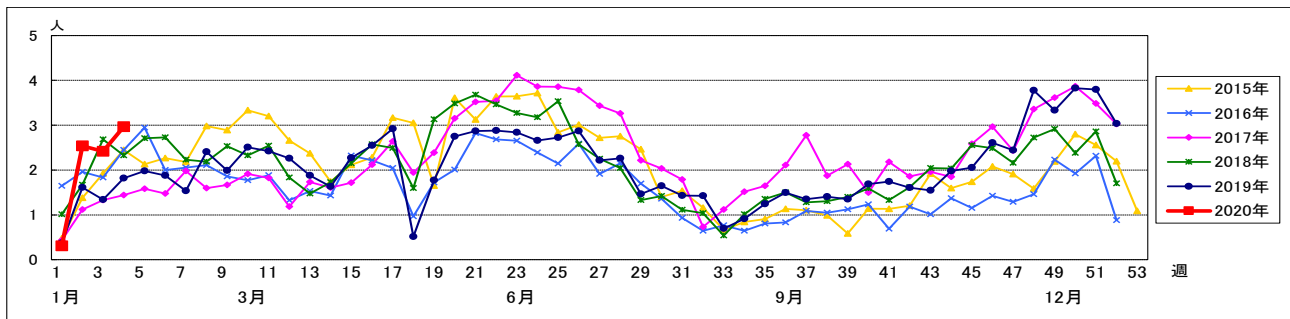
◇ 定点把握の対象

報告週対応表	
第52週	12月23日～12月29日
第1週	12月30日～1月5日
第2週	1月6日～1月12日
第3週	1月13日～1月19日
第4週	1月20日～1月26日

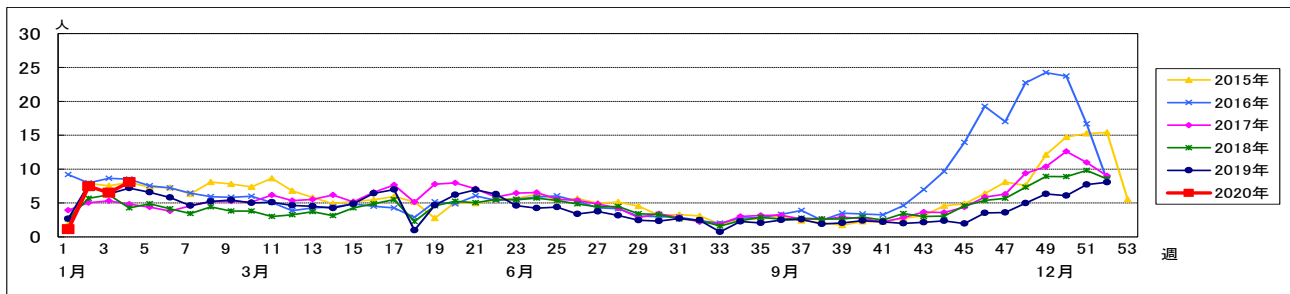
1 **インフルエンザ**: 市全体の定点あたりの患者報告数は、第35週で0.15、第36週で0.29、第39週で0.66と増加し、第40週で1.32となり、流行開始の日安(1.00)を上回りました。第49週に14.51となり、流行注意報が発令されました。第3週で10.80、第4週で13.92と横ばいで推移しています。



2 **A群溶血性レンサ球菌咽頭炎**: 夏に報告数が減少していましたが、冬季に入って報告数が増加しています。第3週で2.41、第4週で2.97となっています。



3 **感染性胃腸炎**: 冬季に入って報告数が増加しています。第4週は8.08となっています。



4 **性感染症(12月)**

性器クラミジア感染症	男性:23件	女性:28件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性:5件	女性:11件
尖圭コンジローマ	男性:6件	女性:4件	淋菌感染症	男性:11件	女性:2件

5 **基幹定点週報**

	第52週	第1週	第2週	第3週	第4週
細菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
無菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
マイコプラズマ肺炎	0.75	0.00	1.00	0.25	0.00
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

6 **基幹定点月報(12月)**

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	10件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	1件
薬剤耐性緑膿菌感染症	0件	-	-

この報告とデータの詳細については、下記に掲載されていますので、ご参照ください。  
 横浜市衛生研究所ホームページ URL: <https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryu/eiken/>

# 令和2年2月期 横浜市感染症発生動向調査委員会報告

## 《今月のトピックス》

- 2020年2月1日に「新型コロナウイルス感染症」が指定感染症になりました。
- インフルエンザの報告数が流行注意報解除基準を下回りました。
- A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の報告が増加しています。

### ◇ 全数把握の対象

#### 〈2月期に報告された全数把握疾患〉

腸管出血性大腸菌感染症	1件	侵襲性肺炎球菌感染症	9件
E型肝炎	2件	水痘(入院例に限る)	1件
レジオネラ症	5件	梅毒	5件
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	1件	破傷風	1件
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	4件	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	1件
後天性免疫不全症候群(HIV感染症含む)	2件	百日咳	6件
侵襲性インフルエンザ菌感染症	1件	-	-

- 1 腸管出血性大腸菌感染症:フィリピンでの感染と推定されるO111の報告が1件ありました。
- 2 E型肝炎:経口感染と推定される報告が2件ありました。
- 3 レジオネラ症:肺炎型の報告が3件、ポンティアック熱型の報告が1件、無症状病原体保有者の報告が1件あり、感染経路等不明でした。
- 4 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症:1件の報告があり、感染経路等不明でした。
- 5 劇症型溶血性レンサ球菌感染症:A群の報告が2件、G群の報告が1件、血清群不明の報告が1件ありました。
- 6 後天性免疫不全症候群(HIV感染症含む):無症状病原体保有者の報告が2件(同性間性的接触の男性1件、異性間性的接触の女性1件)ありました。
- 7 侵襲性インフルエンザ菌感染症:70歳代の報告が1件ありました。
- 8 侵襲性肺炎球菌感染症:10歳未満の報告が1件(ワクチン接種あり)、60歳代の報告が1件(ワクチン接種なし)、70歳代の報告が3件(ワクチン接種あり2件、なし1件)、80歳以上の報告が4件(ワクチン接種なし1件、不明3件)ありました。
- 9 水痘(入院例に限る):30歳代の検査診断例の報告が1件ありました。
- 10 梅毒:5件の報告(無症状病原体保有者3件、早期顕症梅毒 I 期2件)がありました。感染地域は3件が国内、2件が不明で、感染経路は性的接触が3件(異性間が2件、同性間が1件)、不明が2件でした。性別は男性4件、女性1件でした。
- 11 破傷風:80歳代の報告が1件ありました。ワクチン接種歴は不明です。
- 12 バンコマイシン耐性腸球菌感染症:台湾での感染と推定される50歳代の報告が1件ありました。
- 13 百日咳:10歳未満が1件(ワクチン接種あり)、10歳代が3件(ワクチン接種あり)、30歳代が1件(ワクチン接種不明)、50歳代が1件(ワクチン接種不明)の報告がありました。

### ◇ 指定感染症

新型コロナウイルス感染症の報告数は神奈川県にて集約されています。神奈川県衛生研究所ホームページをご参照ください。

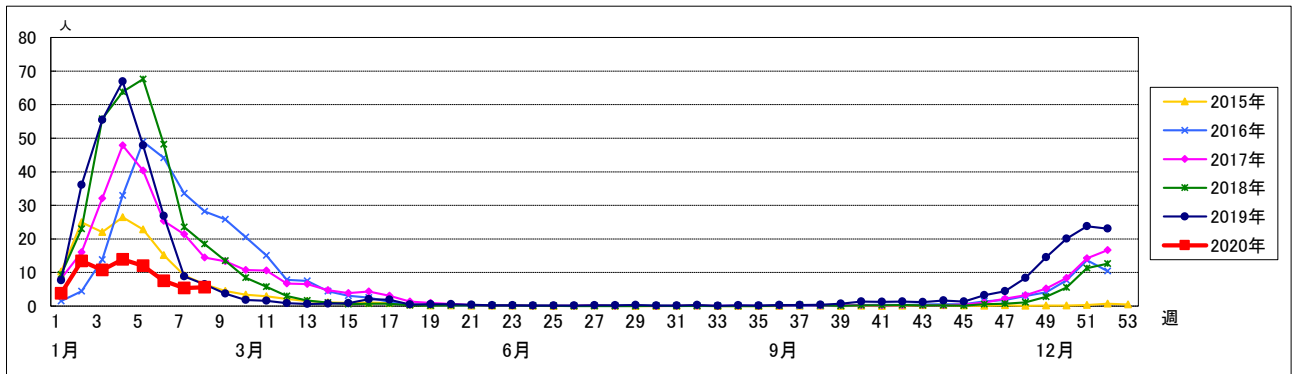
神奈川県衛生研究所感染症情報センター

[http://www.eiken.pref.kanagawa.jp/003\\_center/03\\_center\\_main.htm](http://www.eiken.pref.kanagawa.jp/003_center/03_center_main.htm)

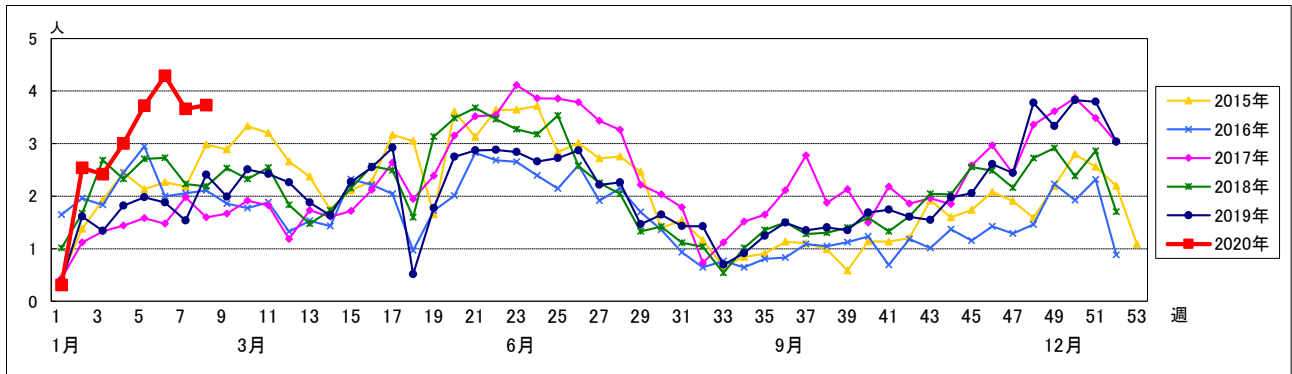
◇ 定点把握の対象

報告週対応表	
第 5週	1月27日～ 2月 2日
第 6週	2月 3日～ 2月 9日
第 7週	2月10日～ 2月16日
第 8週	2月17日～ 2月23日

1 インフルエンザ: 今シーズンの市全体の定点あたりの患者報告数は、第40週で1.32となり、流行開始の目安(1.00)を上回り、第49週に14.51となり、流行注意報が発令されました。第51週にて23.78と今シーズンのピークとなり、第6週で7.52となり、流行注意報解除基準を下回りました。第7週で5.36、第8週で5.62と横ばいで推移しています。



2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎: 夏に報告数が減少していましたが、冬季に入って報告数が増加しています。第7週で3.66、第8週で3.73となっています。



3 性感染症(1月)

性器クラミジア感染症	男性:28件	女性:32件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性: 6件	女性:18件
尖圭コンジローマ	男性: 2件	女性: 3件	淋菌感染症	男性:14件	女性: 1件

4 基幹定点週報

	第5週	第6週	第7週	第8週
細菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00
無菌性髄膜炎	0.00	0.25	0.00	0.00
マイコプラズマ肺炎	0.50	0.75	1.25	0.50
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	0.00	0.00	0.00	0.00

5 基幹定点月報(1月)

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	9件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	1件
薬剤耐性緑膿菌感染症	0件	-	-

この報告とデータの詳細については、下記に掲載されていますので、ご参照ください。  
 横浜市衛生研究所ホームページ URL: <https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryo/eiken/>

# 令和2年3月期 横浜市感染症発生動向調査委員会報告

## 《今月のトピックス》

- 新型コロナウイルス感染症の報告が続いています。
- インフルエンザの報告数が定点あたり1.00を下回りました。

### ◇ 全数把握の対象

#### 〈3月期に報告された全数把握疾患〉

パラチフス	1件	侵襲性インフルエンザ菌感染症	2件
E型肝炎	2件	侵襲性肺炎球菌感染症	2件
レジオネラ症	2件	水痘(入院例に限る)	2件
アメーバ赤痢	4件	梅毒	5件
ウイルス性肝炎	2件	破傷風	1件
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	2件	百日咳	5件
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1件	風しん	1件

- 1 **パラチフス**:カンボディアでの経口感染と推定される報告が1件ありました。
- 2 **E型肝炎**:経口感染と推定される報告が1件、感染経路等不明の報告が1件ありました。
- 3 **レジオネラ症**:肺炎型の報告が1件、ポンティアック熱型の報告が1件あり、感染経路等不明でした。
- 4 **アメーバ赤痢**:腸管アメーバ症の報告が4件ありました。うち2件は異性間性的接触、1件はベトナムでの経口感染、1件は感染経路等不明でした。
- 5 **ウイルス性肝炎**: B型の報告が2件ありました。
- 6 **カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症**:2件の報告があり、感染経路等不明でした。
- 7 **劇症型溶血性レンサ球菌感染症**:80歳代のA群の報告が1件ありました。
- 8 **侵襲性インフルエンザ菌感染症**:10歳未満の報告が1件(ワクチン接種あり)、60歳代の報告が1件ありました。
- 9 **侵襲性肺炎球菌感染症**:50歳代および60歳代の報告が1件ずつ(いずれもワクチン接種なし)ありました。
- 10 **水痘(入院例に限る)**:60歳代および70歳代の臨床診断例の報告が1件ずつありました。
- 11 **梅毒**:5件の報告(無症状病原体保有者3件、早期顕症梅毒Ⅱ期2件)がありました。感染地域は4件が国内、1件が不明で、感染経路は性的接触が4件(異性間が2件、同性間が1件、詳細不明が1件)、不明が1件でした。性別は男性3件、女性2件でした。
- 12 **破傷風**:90歳代の報告が1件ありました。
- 13 **百日咳**:10歳未満が3件(いずれもワクチン接種あり)、10歳代が2件(いずれもワクチン接種あり)の報告がありました。
- 14 **風しん**:タイでの感染と推定される40歳代の検査診断例の報告が1件(ワクチン接種不明)ありました。

### ◇ 指定感染症

新型コロナウイルス感染症の報告数は神奈川県にて集約されています。神奈川県衛生研究所ホームページをご参照ください。

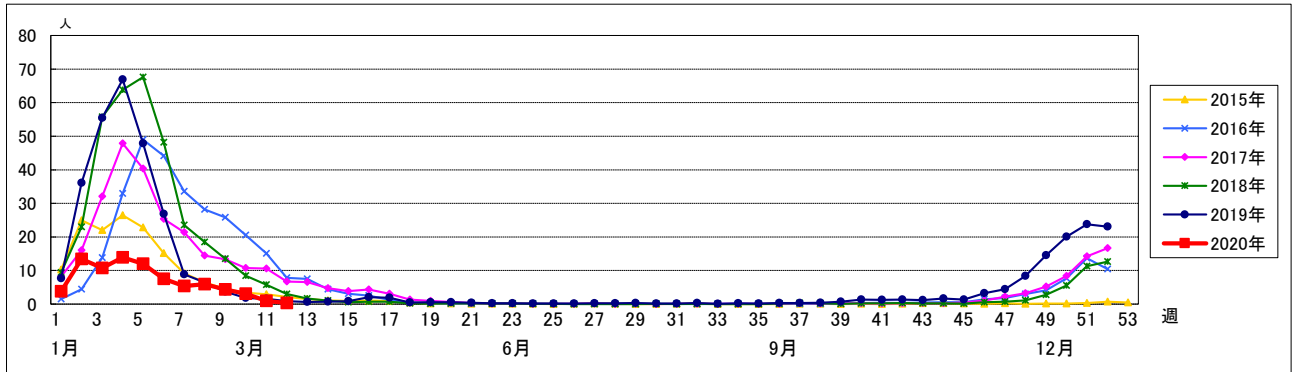
神奈川県衛生研究所感染症情報センター

[http://www.eiken.pref.kanagawa.jp/003\\_center/03\\_center\\_main.htm](http://www.eiken.pref.kanagawa.jp/003_center/03_center_main.htm)

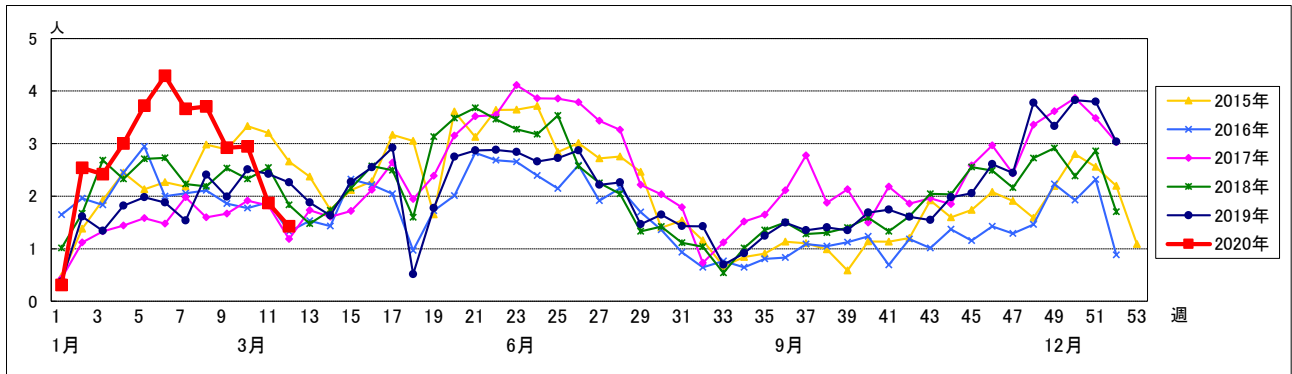
◇ 定点把握の対象

報告週対応表	
第 9週	2月24日～ 3月 1日
第10週	3月 2日～ 3月 8日
第11週	3月 9日～ 3月15日
第12週	3月16日～ 3月22日

1 インフルエンザ: 今シーズンの市全体の定点あたりの患者報告数は、第40週で1.32となり、流行開始の目安(1.00)を上回り、第49週に14.51となり、流行注意報が発令されました。第51週にて23.78と今シーズンのピークとなり、第6週で7.52となり、流行注意報解除基準を下回り、第11週で0.90となり、流行の目安となる1.00を下回りました。



2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎: 冬季に入って報告数が増加し、第6週で4.29となっていました。第11週で1.87、第12週で1.42となっています。



3 性感染症(2月)

性器クラミジア感染症	男性:24件	女性:16件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性: 5件	女性: 8件
尖圭コンジローマ	男性: 3件	女性: 2件	淋菌感染症	男性:15件	女性: 1件

4 基幹定点週報

	第9週	第10週	第11週	第12週
細菌性髄膜炎	0.33	0.00	0.00	0.00
無菌性髄膜炎	0.00	0.33	0.00	0.00
マイコプラズマ肺炎	0.33	0.00	0.67	0.67
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	0.00	0.00	0.00	0.00

5 基幹定点月報(2月)

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	4件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	2件
薬剤耐性緑膿菌感染症	1件	-	-

この報告とデータの詳細については、下記に掲載されていますので、ご参照ください。  
 横浜市衛生研究所ホームページ URL: <https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryo/eiken/>

# 令和2年4月期 横浜市感染症発生動向調査委員会報告

## 《今月のトピックス》

- 新型コロナウイルス感染症の報告が続いています。
- 麻しん検査診断例の報告が1件ありました。
- 感染性胃腸炎の報告が例年と比べて減少しています。

### ◇ 全数把握の対象

#### 〈4月期に報告された全数把握疾患〉

腸管出血性大腸菌感染症	1件	後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)	3件
E型肝炎	1件	侵襲性肺炎球菌感染症	3件
レジオネラ症	2件	梅毒	7件
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	1件	麻しん	1件
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1件	—	—

- 1 腸管出血性大腸菌感染症: O不明(無症状病原体保有者)の報告が1件ありました。
- 2 E型肝炎: 経口感染と推定される報告が1件ありました。
- 3 レジオネラ症: 肺炎型1件、ポンティアック熱型1件の報告がありました。
- 4 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症: 1件の報告があり、感染経路等不明でした。
- 5 劇症型溶血性レンサ球菌感染症: 60歳代のG群の報告が1件ありました。
- 6 後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む): AIDSの報告が2件、無症状病原体保有者の報告が1件ありました。いずれも男性で、感染経路は性的接触(同性間2件、同性間及び異性間1件)でした。
- 7 侵襲性肺炎球菌感染症: 10歳未満の報告が1件(ワクチン接種歴4回あり)、60歳代の報告が2件(いずれもワクチン接種歴なし)ありました。
- 8 梅毒: 7件報告(無症状病原体保有者3件、早期顕症梅毒 I 期2件、早期顕症梅毒 II 期1件、晩期顕症梅毒1件)がありました。感染経路は異性間性的接触4件、不明3件、性別は男性4件、女性3件でした。
- 9 麻しん: 感染経路感染地域等不明の10歳未満検査診断例1件(ワクチン接種歴1回)の報告がありました。

### ◇ 指定感染症

新型コロナウイルス感染症の報告数は神奈川県にて集約されています。  
神奈川県衛生研究所ホームページをご参照ください。

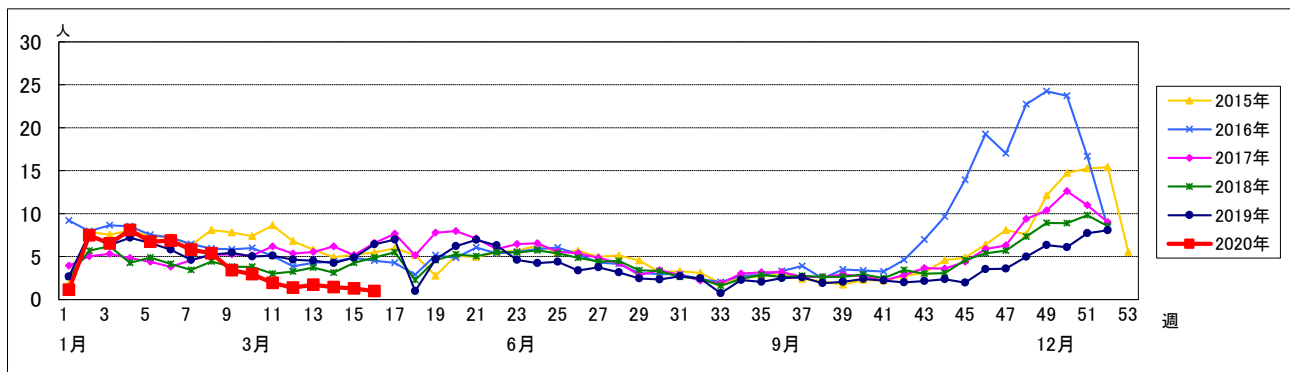
神奈川県衛生研究所感染症情報センター

[http://www.eiken.pref.kanagawa.jp/003\\_center/03\\_center\\_main.htm](http://www.eiken.pref.kanagawa.jp/003_center/03_center_main.htm)

◇ 定点把握の対象

報告週対応表	
第13週	3月23日～ 3月29日
第14週	3月30日～ 4月 5日
第15週	4月 6日～ 4月12日
第16週	4月13日～ 4月19日

1 感染性胃腸炎: 冬季に入って報告数が増加し第4週は8.08となっていました、その後減少し、第16週は0.96と少ない状況となっています。



2 性感染症(3月)

性器クラミジア感染症	男性:30件	女性:25件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性: 7件	女性: 8件
尖圭コンジローマ	男性: 1件	女性: 4件	淋菌感染症	男性:17件	女性: 1件

3 基幹定点週報

	第13週	第14週	第15週	第16週
細菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00
無菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00
マイコプラズマ肺炎	<b>0.67</b>	<b>0.33</b>	<b>1.00</b>	0.00
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	0.00	0.00	0.00	<b>0.33</b>

4 基幹定点月報(3月)

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	4件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	2件
薬剤耐性緑膿菌感染症	0件	-	-

この報告とデータの詳細については、下記に掲載されていますので、ご参照ください。  
 横浜市衛生研究所ホームページ URL: <https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryo/eiken/>



# 令和2年5月期 横浜市感染症発生動向調査委員会報告

## 《今月のトピックス》

- 新型コロナウイルス感染症の報告が続いています。
- 定点把握対象疾患の多くが、例年より低めの報告数で推移しています。

### ◇ 全数把握の対象

#### 〈5月期に報告された全数把握疾患〉

腸管出血性大腸菌感染症	1件	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1件
A型肝炎	1件	後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)	1件
レジオネラ症	3件	侵襲性肺炎球菌感染症	2件
アメーバ赤痢	3件	水痘(入院例に限る)	1件
ウイルス性肝炎	2件	梅毒	6件
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	7件	百日咳	1件
急性脳炎	1件	—	—

- 1 腸管出血性大腸菌感染症: O血清群不明ベロ毒素VT1(無症状病原体保有者)の報告が1件ありました。
- 2 A型肝炎: 感染経路等不明(ワクチン接種歴無)の90歳代の報告が1件ありました。
- 3 レジオネラ症: 肺炎型の報告が3件ありました。
- 4 アメーバ赤痢: 腸管アメーバ症の報告が3件あり、いずれも感染経路等不明です。
- 5 ウイルス性肝炎: B型ウイルス性肝炎1件(ワクチン接種歴不明)、C型ウイルス性肝炎1件の報告がありました。
- 6 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症: 7件の報告がありました。そのうち3件で医療器具関連感染が推定されています。
- 7 急性脳炎: 病原体不明の30歳代の報告が1件ありました。
- 8 劇症型溶血性レンサ球菌感染症: 創傷感染が推定される50歳代の報告が1件ありました。
- 9 後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む): 同性間性的接触による感染が推定されるAIDSの報告が1件ありました。
- 10 侵襲性肺炎球菌感染症: 10歳未満の報告が1件(ワクチン接種歴4回あり)、80歳代の報告が1件(ワクチン接種歴不明)ありました。
- 11 水痘(入院例に限る): 40歳代の検査診断例(ワクチン接種歴無)が1件ありました。
- 12 梅毒: 無症状病原体保有者1件、早期顕症梅毒Ⅰ期2件、早期顕症梅毒Ⅱ期2件、晩期顕症梅毒1件の報告がありました。推定される感染経路は異性間性的接触5件、不明1件で、性別は男性3件、女性3件でした。
- 13 百日咳: 感染経路等不明の10歳未満の報告(ワクチン接種歴4回あり)が1件ありました。

### ◇ 指定感染症

新型コロナウイルス感染症の報告数は神奈川県にて集約されています。

神奈川県衛生研究所ホームページをご参照ください。

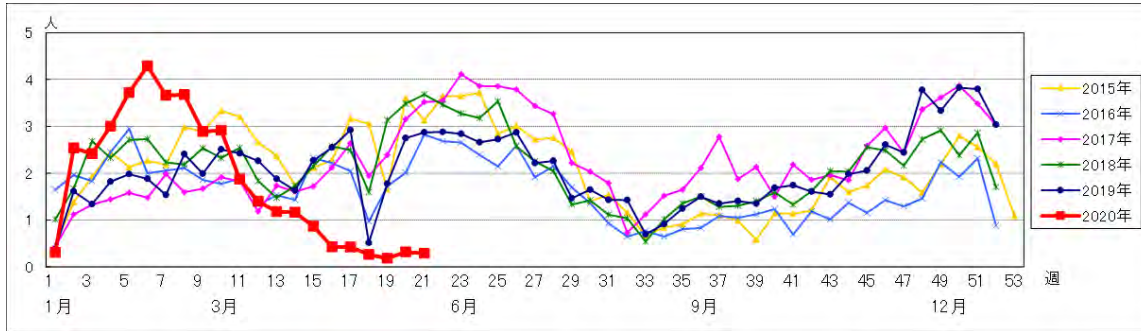
神奈川県衛生研究所感染症情報センター

[http://www.eiken.pref.kanagawa.jp/003\\_center/03\\_center\\_main.htm](http://www.eiken.pref.kanagawa.jp/003_center/03_center_main.htm)

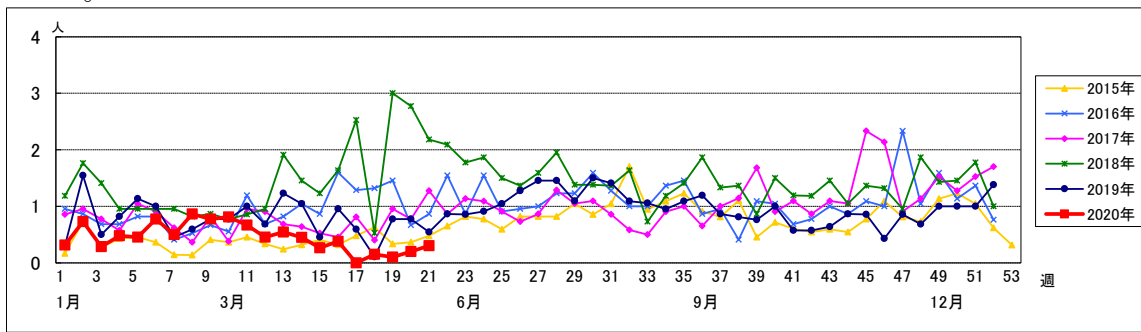
◇ 定点把握の対象:

報告週対応表	
第17週	4月20日～ 4月26日
第18週	4月27日～ 5月 3日
第19週	5月 4日～ 5月10日
第20週	5月11日～ 5月17日
第21週	5月18日～ 5月24日

1 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎: 第6週の4.29をピークにその後減少し、例年より低めの報告数で推移、第21週は0.29となっています。



2 流行性角結膜炎: 例年この時期より増加傾向がみられますが、報告数は低めで推移し、第21週は0.30でした。



3 性感染症(4月)

性器クラミジア感染症	男性:24件	女性:15件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性: 5件	女性: 9件
尖圭コンジローマ	男性: 9件	女性: 6件	淋菌感染症	男性:16件	女性: 2件

4 基幹定点週報

	第17週	第18週	第19週	第20週	第21週
細菌性髄膜炎	0.00	0.50	0.00	0.00	0.00
無菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
マイコプラズマ肺炎	0.00	0.50	0.00	0.00	0.00
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

5 基幹定点月報(4月)

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	7件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0件
薬剤耐性緑膿菌感染症	0件	-	-

この報告とデータの詳細については、下記に掲載されていますので、ご参照ください。  
横浜市衛生研究所ホームページ URL: <https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryo/eiken/>

# 令和2年6月期 横浜市感染症発生動向調査委員会報告

## 《今月のトピックス》

- 腸管出血性大腸菌感染症の報告が増えています。
- 定点把握対象疾患の多くが、例年より低めの報告数で推移しています。
- 新型コロナウイルス感染症の報告が続いています。

### ◇ 全数把握の対象

#### 〈6月期に報告された全数把握疾患〉

腸管出血性大腸菌感染症	8件	後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)	7件
E型肝炎	1件	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1件
レジオネラ症	3件	侵襲性肺炎球菌感染症	1件
アメーバ赤痢	1件	梅毒	11件
ウイルス性肝炎	1件	播種性クリプトコックス症	1件
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	7件	破傷風	1件
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	2件	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	2件

- 1 腸管出血性大腸菌感染症:8件の報告(O157が5件(うち無症状病原体保有者が1件)、O26が1件、O血清群不明が2件(2件とも無症状病原体保有者))がありました。
- 2 E型肝炎:感染経路等不明の60歳代の報告が1件ありました。
- 3 レジオネラ症:肺炎型2件、ポンティアック熱型1件の報告がありました。いずれも感染経路等不明です。
- 4 アメーバ赤痢:腸管アメーバ症の報告が1件ありました。感染経路等不明です。
- 5 ウイルス性肝炎:B型ウイルス性肝炎(ワクチン接種歴不明)の報告が1件ありました。
- 6 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症:7件の報告がありました。
- 7 劇症型溶血性レンサ球菌感染症:G群、A群の報告が各1件ずつありました。
- 8 後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む):AIDSの報告が2件、無症状病原体保有者の報告が2件、その他が3件ありました。性別は男性6件、女性1件で、推定感染経路はすべて性的接触(同性間4件、異性間2件、異性間および同性間1件)でした。
- 9 侵襲性インフルエンザ菌感染症:30歳代の報告が1件(ワクチン接種歴不明)ありました。
- 10 侵襲性肺炎球菌感染症:70歳代の報告が1件(ワクチン接種歴不明)ありました。
- 11 梅毒:無症状病原体保有者3件、早期顕症梅毒Ⅰ期4件、早期顕症梅毒Ⅱ期4件の報告がありました。性別は男性8件、女性3件、推定感染経路はいずれも性的接触(異性間7件、同性間1件、異性間および同性間1件、詳細不明2件)でした。
- 12 播種性クリプトコックス症:40歳代の報告が1件ありました。
- 13 破傷風:70歳代の報告(ワクチン接種歴不明)が1件ありました。
- 14 バンコマイシン耐性腸球菌感染症:70歳代の報告が1件、90歳代の報告が1件ありました。

### ◇ 指定感染症

新型コロナウイルス感染症の報告数は神奈川県にて集約されています。  
神奈川県衛生研究所ホームページをご参照ください。

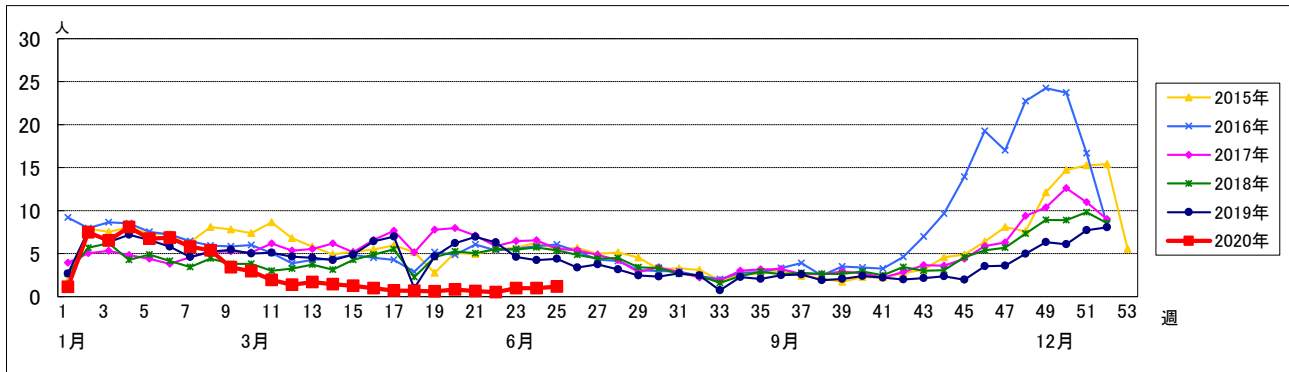
神奈川県衛生研究所感染症情報センター

[http://www.eiken.pref.kanagawa.jp/003\\_center/03\\_center\\_main.htm](http://www.eiken.pref.kanagawa.jp/003_center/03_center_main.htm)

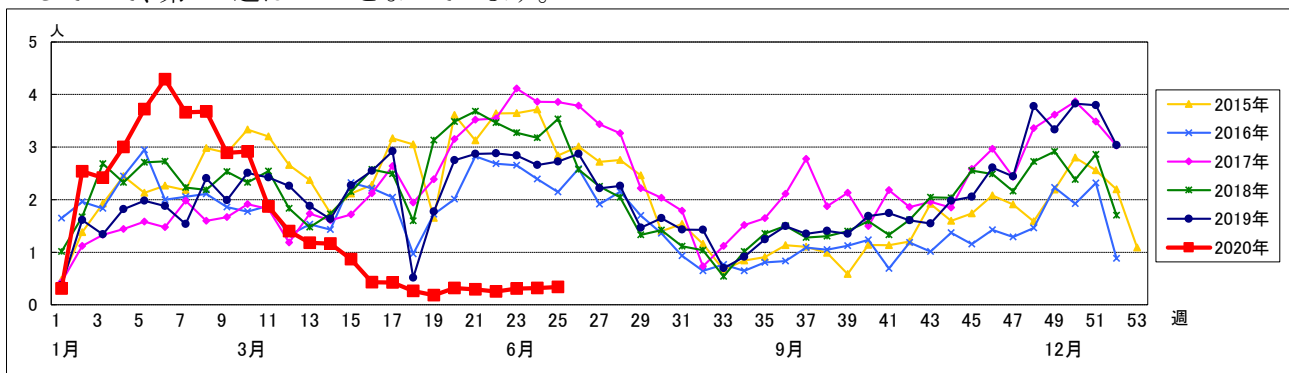
◇ 定点把握の対象:

報告週対応表	
第21週	5月18日～5月24日
第22週	5月25日～5月31日
第23週	6月1日～6月7日
第24週	6月8日～6月14日
第25週	6月15日～6月21日

1 感染性胃腸炎: 第4週の8.09をピークにその後減少し、例年より低めの報告数で推移していて、第25週は1.17となっています。



2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎: 第6週の4.29をピークにその後減少し、例年より低めの報告数で推移していて、第25週は0.34となっています。



3 性感染症(5月)

性器クラミジア感染症	男性:35件	女性:28件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性: 5件	女性: 7件
尖圭コンジローマ	男性: 8件	女性: 7件	淋菌感染症	男性: 7件	女性: 2件

4 基幹定点週報

	第22週	第23週	第24週	第25週
細菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00
無菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00
マイコプラズマ肺炎	0.00	0.00	0.00	0.00
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	0.00	0.00	0.00	0.00

5 基幹定点月報(5月)

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	9件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0件
薬剤耐性緑膿菌感染症	0件	-	-

この報告とデータの詳細については、下記に掲載されていますので、ご参照ください。  
 横浜市衛生研究所ホームページ URL: <https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryu/eiken/>

# 令和2年7月期 横浜市感染症発生動向調査委員会報告

## 《今月のトピックス》

- 腸管出血性大腸菌感染症の報告が続いています。
- 新型コロナウイルス感染症の報告が増えています。
- 今の時期に多くみられる手足口病、ヘルパンギーナ、咽頭結膜熱は、例年より低めの報告数で推移しています。

### ◇ 全数把握の対象

#### 〈7月期に報告された全数把握疾患〉

腸管出血性大腸菌感染症	13件	後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)	4件
レジオネラ症	5件	侵襲性肺炎球菌感染症	2件
アメーバ赤痢	2件	水痘(入院例に限る)	1件
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	7件	梅毒	10件
急性脳炎	2件	破傷風	1件
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	3件	-	-

- 1 腸管出血性大腸菌感染症: 13件の報告(○157が5件(うち無症状病原体保有者が2件)、○26が1件(無症状病原体保有者)、○115が2件(ともに無症状病原体保有者)、○111が1件(無症状病原体保有者)、○145が1件(無症状病原体保有者)、○103が1件(無症状病原体保有者)、○血清群不明が2件(うち無症状病原体保有者が1件))がありました。
- 2 レジオネラ症: 肺炎型5件の報告がありました。いずれも感染経路等不明です。
- 3 アメーバ赤痢: 腸管アメーバ症の報告が2件ありました。いずれも感染経路等不明です。
- 4 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症: 7件の報告がありました。いずれも感染経路等不明です。
- 5 急性脳炎: 2件の報告がありました。
- 6 劇症型溶血性レンサ球菌感染症: B群1件、G群2件の報告がありました。いずれも感染経路等不明です。
- 7 後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む): AIDSの報告が1件、無症状病原体保有者の報告が2件、その他1件報告がありました。性別は男性4件で、推定感染経路はすべて性的接触(同性間3件、異性間1件)でした。
- 8 侵襲性肺炎球菌感染症: 60歳代の報告が1件(ワクチン接種歴無)、90歳代の報告が1件(ワクチン接種歴1回有)ありました。
- 9 水痘(入院例に限る): 50歳代の報告が1件(ワクチン接種歴不明)ありました。
- 10 梅毒: 無症状病原体保有者4件、早期顕症梅毒Ⅰ期2件、早期顕症梅毒Ⅱ期3件、晩期顕症梅毒1件の報告がありました。性別は男性6件、女性4件、推定感染経路は性的接触5件、感染経路等不明が5件でした。
- 11 破傷風: 60歳代の報告(ワクチン接種歴無)が1件ありました。

### ◇ 指定感染症

新型コロナウイルス感染症の報告数は神奈川県にて集約されています。  
神奈川県衛生研究所ホームページをご参照ください。

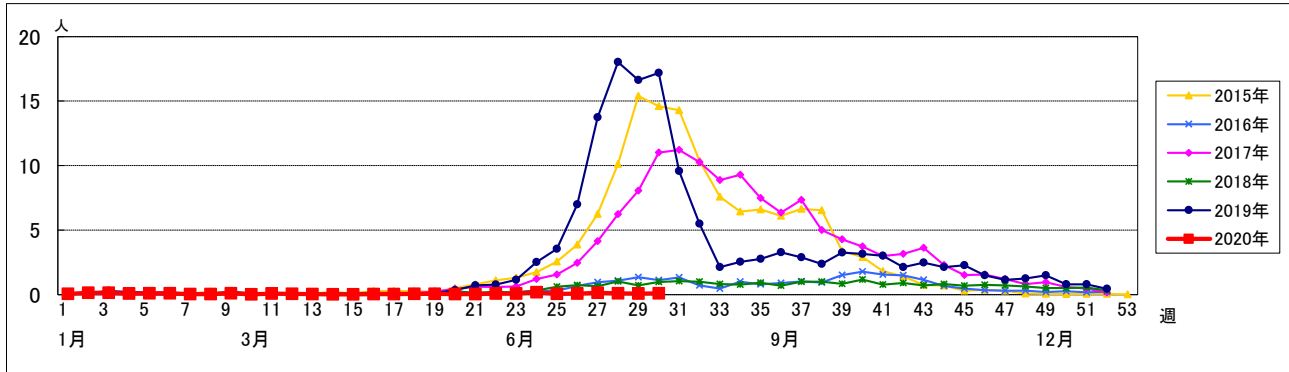
神奈川県衛生研究所感染症情報センター

[http://www.eiken.pref.kanagawa.jp/003\\_center/03\\_center\\_main.htm](http://www.eiken.pref.kanagawa.jp/003_center/03_center_main.htm)

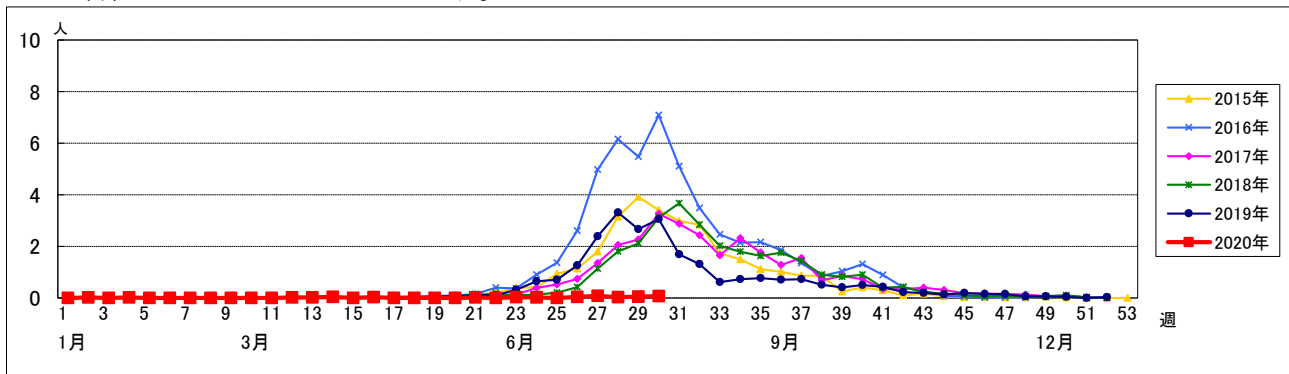
◇ 定点把握の対象:

報告週対応表	
第26週	6月22日～6月28日
第27週	6月29日～7月5日
第28週	7月6日～7月12日
第29週	7月13日～7月19日
第30週	7月20日～7月26日

1 手足口病:この時期に流行がみられることが多いですが、例年より低めの報告数で推移していて、第30週は0.10となっています。



2 ヘルパンギーナ:この時期に流行がみられることが多いですが、例年より低めの報告数で推移していて、第30週は0.07となっています。



3 性感染症(6月)

性器クラミジア感染症	男性:28件	女性:27件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性:8件	女性:8件
尖圭コンジローマ	男性:4件	女性:1件	淋菌感染症	男性:14件	女性:2件

4 基幹定点週報

	第26週	第27週	第28週	第29週	第30週
細菌性髄膜炎	0.33	0.00	0.00	0.00	0.00
無菌性髄膜炎	0.00	0.33	0.00	0.00	0.00
マイコプラズマ肺炎	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

5 基幹定点月報(6月)

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	9件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0件
薬剤耐性緑膿菌感染症	0件	-	-

この報告とデータの詳細については、下記に掲載されていますので、ご参照ください。  
 横浜市衛生研究所ホームページ URL: <https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryo/eiken/>

# 令和2年8月期 横浜市感染症発生動向調査委員会報告

## 《今月のトピックス》

- 腸管出血性大腸菌感染症の報告が続いています。
- 新型コロナウイルス感染症の報告が続いています。
- 梅毒の報告がやや多めです。

### ◇ 全数把握の対象

#### 〈8月期に報告された全数把握疾患〉

腸管出血性大腸菌感染症	9件	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	4件
A型肝炎	1件	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1件
レジオネラ症	4件	侵襲性肺炎球菌感染症	2件
アメーバ赤痢	4件	梅毒	17件
ウイルス性肝炎	1件	-	-

- 1 **腸管出血性大腸菌感染症**: 9件の報告 (O91が1件(無症状病原体保有者)、O26が2件(うち無症状病原体保有者が1件)、O103が3件(うち無症状病原体保有者が1件)、O128が1件(無症状病原体保有者)、O血清群不明が2件(うち無症状病原体保有者が1件))がありました。
- 2 **A型肝炎**: 1件の報告がありました。感染経路等不明です。
- 3 **レジオネラ症**: 肺炎型3件、ポンティアック熱型1件の報告がありました。いずれも感染経路等不明です。
- 4 **アメーバ赤痢**: 腸管アメーバ症の報告が3件、腸管および腸管外アメーバ症の報告が1件ありました。いずれも感染経路等不明です。
- 5 **ウイルス性肝炎**: B型肝炎の報告が1件ありました。異性間性的接触による感染が推定されています。
- 6 **カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症**: 4件の報告がありました。いずれも感染経路等不明です。
- 7 **劇症型溶血性レンサ球菌感染症**: L群1件の報告がありました。感染経路等不明です。
- 8 **侵襲性肺炎球菌感染症**: 70歳代の報告が1件(ワクチン接種歴不明)、10歳未満の報告が1件(ワクチン接種歴3回有)ありました。いずれも感染経路等不明です。
- 9 **梅毒**: 無症状病原体保有者6件、早期顕症梅毒Ⅰ期7件、早期顕症梅毒Ⅱ期3件、晩期顕症梅毒1件の報告がありました。性別は男性15件、女性2件、推定感染経路は異性間性的接触11件、同性間性的接触が2件、感染経路等不明が4件でした。

### ◇ 指定感染症

新型コロナウイルス感染症の報告数は神奈川県にて集約されています。  
神奈川県衛生研究所ホームページをご参照ください。

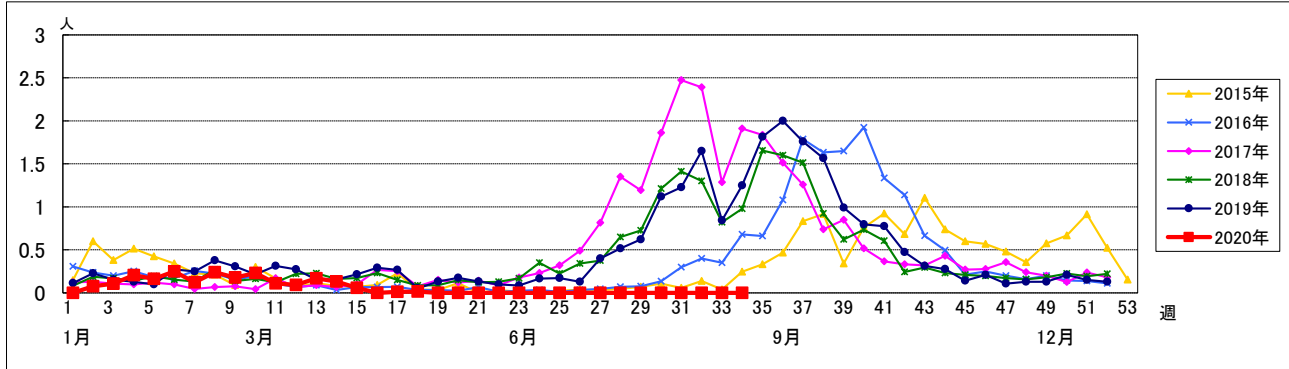
神奈川県衛生研究所感染症情報センター

[http://www.eiken.pref.kanagawa.jp/003\\_center/03\\_center\\_main.htm](http://www.eiken.pref.kanagawa.jp/003_center/03_center_main.htm)

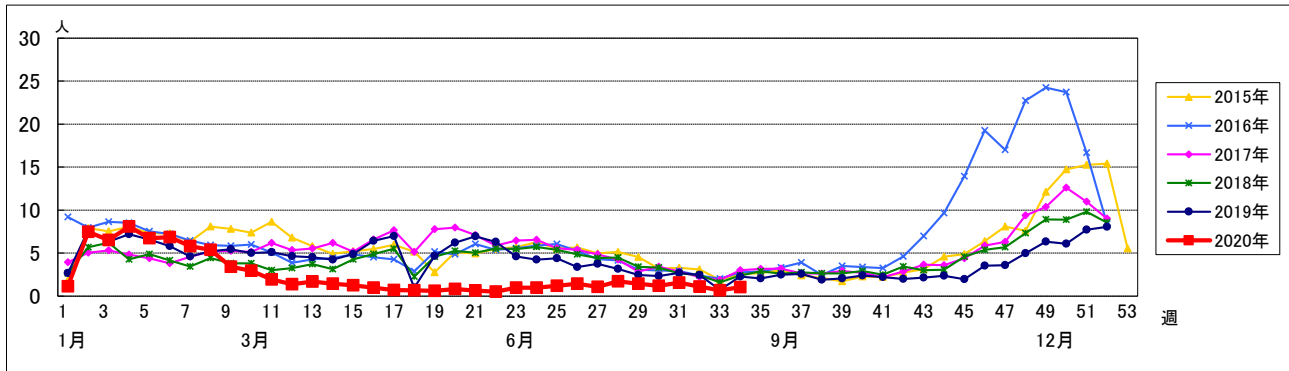
◇ 定点把握の対象:

報告週対応表	
第31週	7月27日～8月 2日
第32週	8月 3日～8月 9日
第33週	8月10日～8月16日
第34週	8月17日～8月23日

1 RSウイルス感染症: 昨年はこの時期に多くの報告がみられていましたが、今年は、第34週で0.00です。



2 感染性胃腸炎: 例年より低めの報告数で推移していて、第34週は1.03となっています。



3 性感染症(7月)

性器クラミジア感染症	男性:17件	女性:23件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性: 7件	女性: 7件
尖圭コンジローマ	男性: 4件	女性: 2件	淋菌感染症	男性: 18件	女性: 1件

4 基幹定点週報

	第31週	第32週	第33週	第34週
細菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00
無菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00
マイコプラズマ肺炎	0.00	0.00	0.00	0.00
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	0.00	0.00	0.00	0.00

5 基幹定点月報(7月)

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	11件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0件
薬剤耐性緑膿菌感染症	0件	-	-

この報告とデータの詳細については、下記に掲載されていますので、ご参照ください。  
横浜市衛生研究所ホームページ URL: <https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryo/eiken/>



# 令和2年9月期 横浜市感染症発生動向調査委員会報告

## 《今月のトピックス》

- 腸管出血性大腸菌感染症の報告が続いています。
- 新型コロナウイルス感染症の報告が続いています。

### ◇ 全数把握の対象

#### 〈9月期に報告された全数把握疾患〉

腸管出血性大腸菌感染症	8件	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1件
E型肝炎	1件	後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)	4件
レジオネラ症	3件	侵襲性肺炎球菌感染症	1件
アメーバ赤痢	1件	梅毒	3件
ウイルス性肝炎	1件	百日咳	1件
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	1件	-	-

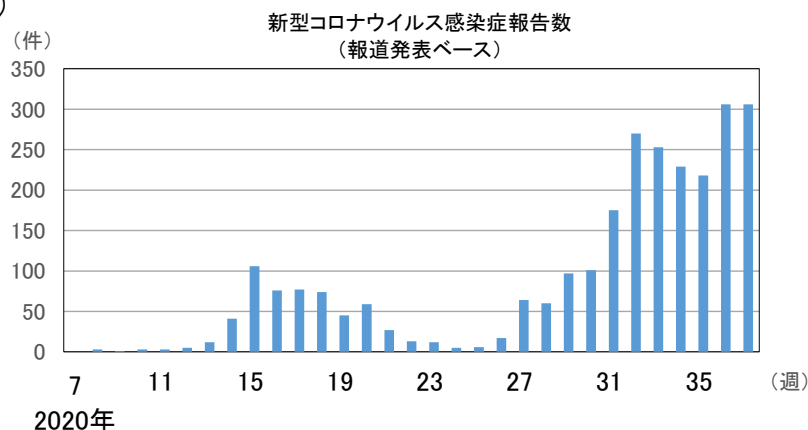
- 1 腸管出血性大腸菌感染症: O91が1件(無症状病原体保有者)、O26が1件、O111が1件(無症状病原体保有者)、O157が3件、O血清群不明が2件(うち無症状病原体保有者が1件)の報告がありました。
- 2 E型肝炎: 1件の報告がありました。感染経路等不明です。
- 3 レジオネラ症: 肺炎型1件、ポンティアック熱型2件の報告がありました。いずれも感染経路等不明です。
- 4 アメーバ赤痢: 腸管アメーバ症の報告が1件ありました。感染経路等不明です。
- 5 ウイルス性肝炎: B型肝炎の報告が1件ありました。針等の鋭利なものの刺入による感染が推定されています。
- 6 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症: 1件の報告がありました。感染経路等不明です。
- 7 劇症型溶血性レンサ球菌感染症: A群1件の報告がありました。感染経路等不明です。
- 8 後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む): 無症状病原体保有者3件、その他1件の報告がありました。いずれも性的接触(同性間3件、異性間1件)による感染が推定されています。
- 9 侵襲性肺炎球菌感染症: 70歳代の報告が1件(ワクチン接種歴不明)ありました。感染経路等不明です。
- 10 梅毒: 無症状病原体保有者1件、早期顕症梅毒Ⅱ期2件の報告がありました。性別は男性1件、女性2件で、いずれも性的接触による感染が推定されています。
- 11 百日咳: 10歳未満の報告が1件(ワクチン接種歴4回)ありました。感染経路等不明です。

### ◇ 指定感染症(新型コロナウイルス感染症)

今回の調査期間(8月24日から9月13日)に横浜市から報道発表のありました症例は830件でした。

横浜市内の新型コロナウイルスに感染した患者の発生状況

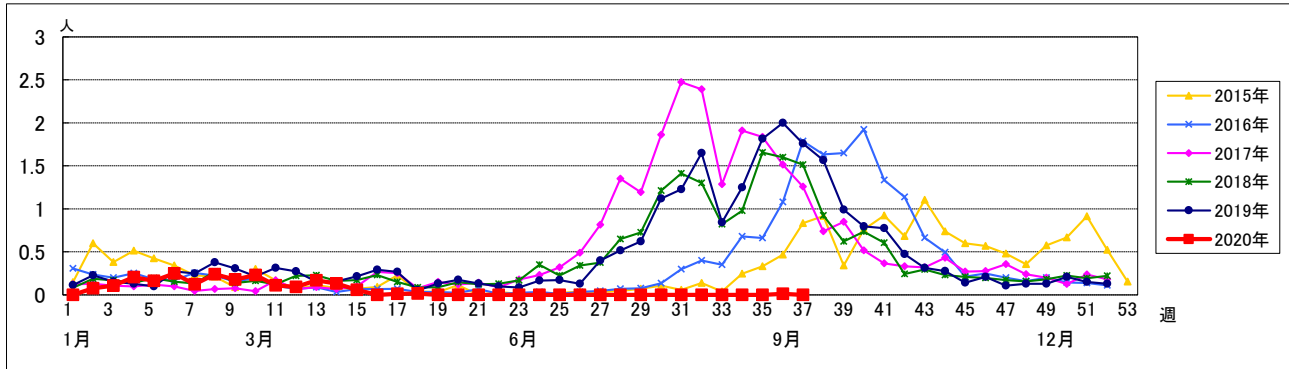
<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryō/yobosesshu/kansensho/coronavirus/kanja.html>



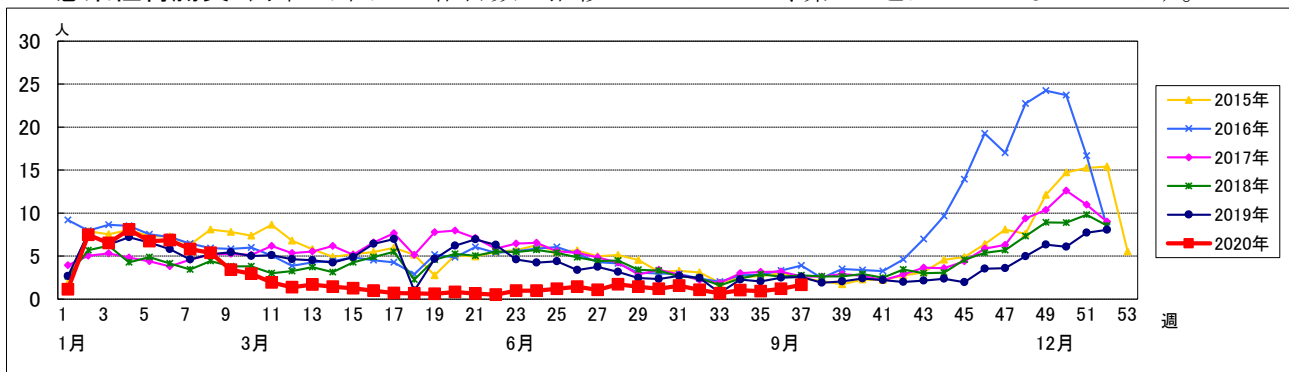
◇ 定点把握の対象:

報告週対応表	
第35週	8月24日～8月30日
第36週	8月31日～9月6日
第37週	9月7日～9月13日

1 RSウイルス感染症: 昨年はこの時期に多くの報告がみられていましたが、今年第37週で0.00です。



2 感染性胃腸炎: 例年より低めの報告数で推移していましたが、第37週は1.63となっています。



3 性感染症(8月)

性器クラミジア感染症	男性:30件	女性:19件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性:7件	女性:8件
尖圭コンジローマ	男性:1件	女性:3件	淋菌感染症	男性:24件	女性:2件

4 基幹定点週報

	第35週	第36週	第37週
細菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00
無菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.50
マイコプラズマ肺炎	0.00	0.00	0.00
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	0.00	0.00	0.00

5 基幹定点月報(8月)

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	5件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0件
薬剤耐性緑膿菌感染症	0件	-	-

この報告とデータの詳細については、下記に掲載されていますので、ご参照ください。  
 横浜市衛生研究所ホームページ URL: <https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryoe/eiken/>

# 令和2年10月期 横浜市感染症発生動向調査委員会報告

## 《今月のトピックス》

- 腸管出血性大腸菌感染症の報告が続いています。
- 新型コロナウイルス感染症の報告が続いています。

### ◇ 全数把握の対象

#### 〈10月期に報告された全数把握疾患〉

腸管出血性大腸菌感染症	31件	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1件
E型肝炎	4件	後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)	3件
レジオネラ症	5件	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1件
レプトスピラ症	1件	侵襲性肺炎球菌感染症	2件
アメーバ赤痢	4件	水痘(入院例に限る)	4件
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	5件	梅毒	14件

- 腸管出血性大腸菌感染症: O157が23件(うち無症状病原体保有者が6件)、O26が1件(無症状病原体保有者)、O111が1件(無症状病原体保有者)、O103が2件、O128が1件(無症状病原体保有者)、O血清群不明が3件(すべて無症状病原体保有者)の報告がありました。
- E型肝炎: 4件の報告がありました(うち無症状病原体保有者が2件)。いずれも感染経路等不明です。
- レジオネラ症: 肺炎型5件の報告がありました。いずれも感染経路等不明です。
- レプトスピラ症: 1件の報告がありました。沖縄県での水系感染が推定されています。
- アメーバ赤痢: 腸管アメーバ症の報告が4件ありました。そのうち2件は性的接触による感染が推定されています。
- カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症: 5件の報告がありました。いずれも感染経路等不明です。
- 劇症型溶血性レンサ球菌感染症: B群1件の報告がありました。創傷感染が推定されています。
- 後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む): AIDS3件の報告がありました。いずれも男性で、そのうち2件は性的接触による感染が推定されています。
- 侵襲性インフルエンザ菌感染症: 80歳代の報告が1件ありました。感染経路等不明です。
- 侵襲性肺炎球菌感染症: 70歳代の報告が2件(いずれもワクチン接種歴不明)ありました。いずれも感染経路等不明です。
- 水痘(入院例に限る): 検査診断例の報告が4件ありました。いずれもワクチン接種歴不明です。
- 梅毒: 無症状病原体保有者1件、早期顕症梅毒Ⅰ期10件、早期顕症梅毒Ⅱ期3件の報告がありました。性別は男性11件、女性3件で、いずれも性的接触による感染が推定されています。

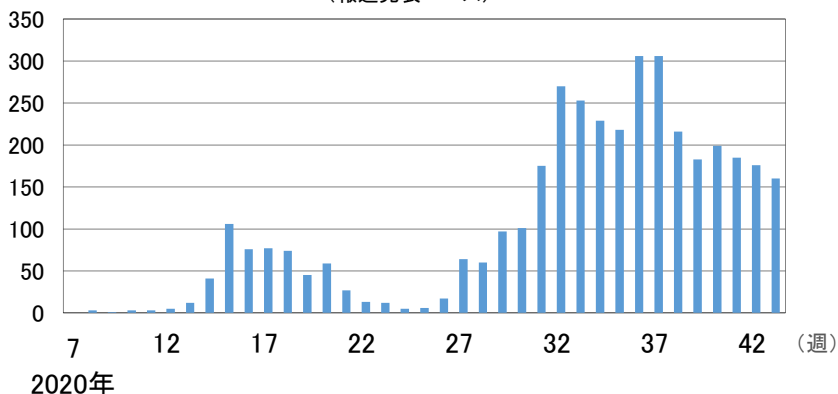
### ◇ 指定感染症(新型コロナウイルス感染症) (件)

第38週～第43週に横浜市から報道発表のありました症例は1119件でした。

横浜市内の新型コロナウイルスに感染した患者の発生状況

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryoyobosesshu/kansensho/coronavirus/kanja.html>

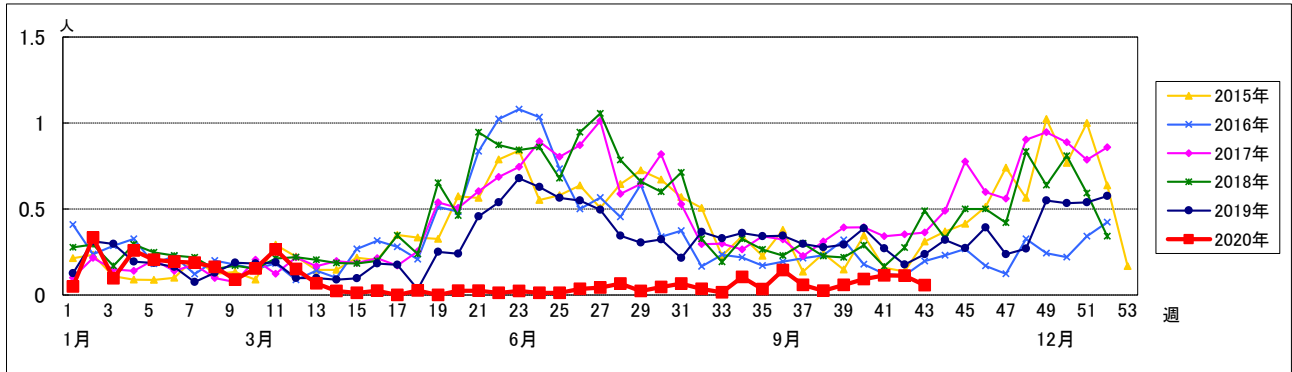
新型コロナウイルス感染症報告数  
(報道発表ベース)



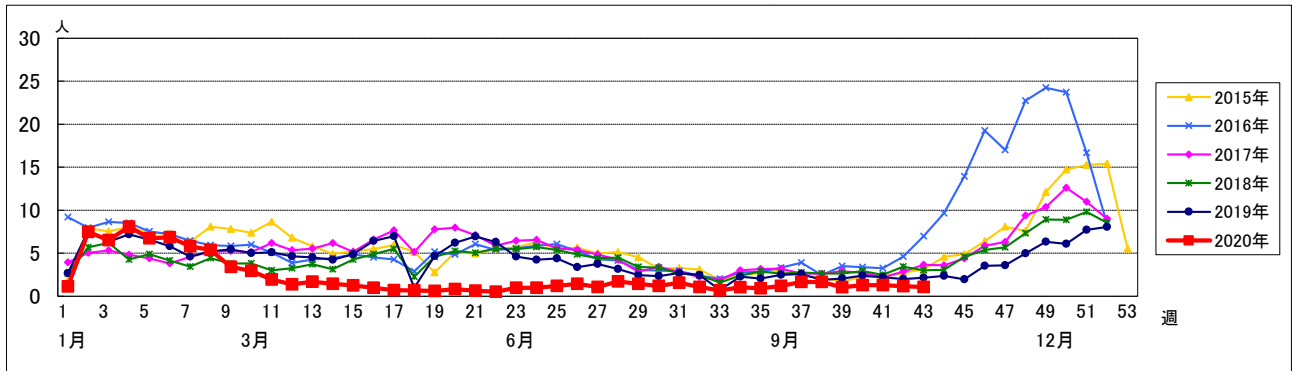
◇ 定点把握の対象:

報告週対応表	
第38週	9月14日～9月20日
第39週	9月21日～9月27日
第40週	9月28日～10月4日
第41週	10月5日～10月11日
第42週	10月12日～10月18日
第43週	10月19日～10月25日

1 咽頭結膜熱: 例年より低めの報告数で推移しています。第43週は0.06です。



2 感染性胃腸炎: 例年より低めの報告数で推移しています。第43週は1.06です。



3 性感染症(9月)

性器クラミジア感染症	男性:20件	女性:19件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性:2件	女性:10件
尖圭コンジローマ	男性:5件	女性:2件	淋菌感染症	男性:15件	女性:1件

4 基幹定点週報

	第38週	第39週	第40週	第41週	第42週	第43週
細菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
無菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
マイコプラズマ肺炎	0.00	0.00	0.33	0.00	0.00	0.00
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

5 基幹定点月報(9月)

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	5件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0件
薬剤耐性緑膿菌感染症	0件	-	-

この報告とデータの詳細については、下記に掲載されていますので、ご参照ください。  
 横浜市衛生研究所ホームページ URL: <https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryo/eiken/>

# 令和2年11月期 横浜市感染症発生動向調査委員会報告

## 《今月のトピックス》

- 新型コロナウイルス感染症の報告が増加しています。

### ◇ 全数把握の対象

#### 〈11月期に報告された全数把握疾患〉

腸管出血性大腸菌感染症	6件	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	5件
E型肝炎	2件	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	2件
レジオネラ症	3件	侵襲性肺炎球菌感染症	2件
アメーバ赤痢	3件	梅毒	6件
ウイルス性肝炎	1件	播種性クリプトコックス症	1件

- 腸管出血性大腸菌感染症：O157が2件、O26が1件、O血清群不明が1件、O128が1件、O91が1件の報告がありました。
- E型肝炎：2件の報告がありました。いずれも感染経路等不明です。
- レジオネラ症：肺炎型2件、ポンティアック熱型1件の報告がありました。いずれも感染経路感染地域等不明です。
- アメーバ赤痢：腸管アメーバ症の報告が3件ありました。1件は性的接触による感染が推定されています。
- ウイルス性肝炎：ワクチン接種歴不明のB型肝炎の報告が1件ありました。感染経路等不明です。
- カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症：5件の報告があり、いずれも感染経路等不明です。
- 劇症型溶血性レンサ球菌感染症：A群1件、B群1件の報告がありました。そのうち1件は創傷感染が推定されています。
- 侵襲性肺炎球菌感染症：80歳代の報告が2件（ワクチン接種歴不明1件、ワクチン接種歴1回あり1件）ありました。いずれも感染経路等不明です。
- 梅毒：無症状病原体保有者2件、早期顕症梅毒Ⅰ期3件、早期顕症梅毒Ⅱ期1件の報告がありました。性別が男性3件、女性3件で、感染経路は性的接触による感染が3件（異性間2件、詳細不明1件）、不明3件でした。
- 播種性クリプトコックス症：免疫不全によるものと推定される60歳代の報告が1件ありました。

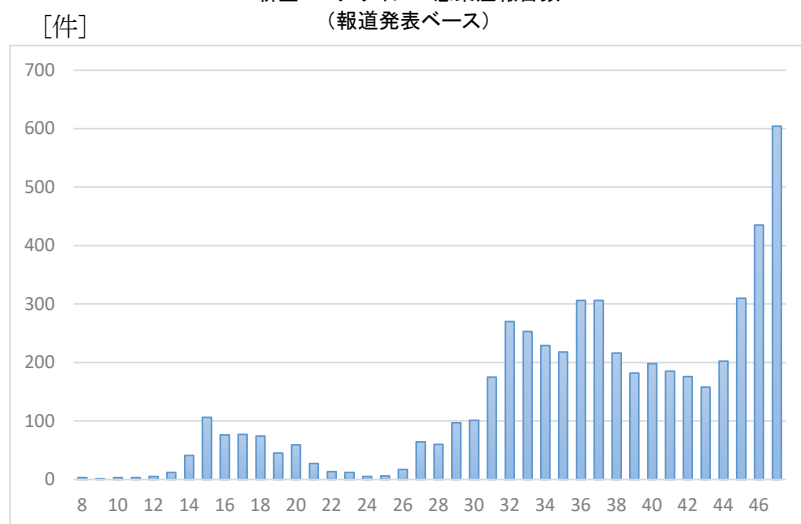
### ◇ 指定感染症(新型コロナウイルス感染症)

第43週～第47週に横浜市から報道発表のありました症例は1709件でした。

横浜市内の新型コロナウイルスに感染した患者の発生状況

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryu/yobosesshu/kansensho/coronavirus/kanja.html>

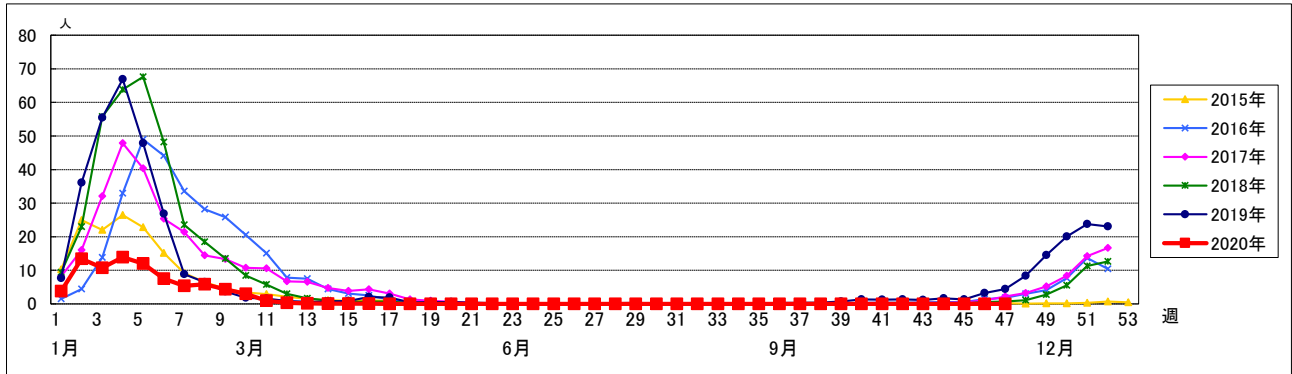
新型コロナウイルス感染症報告数  
(報道発表ベース)



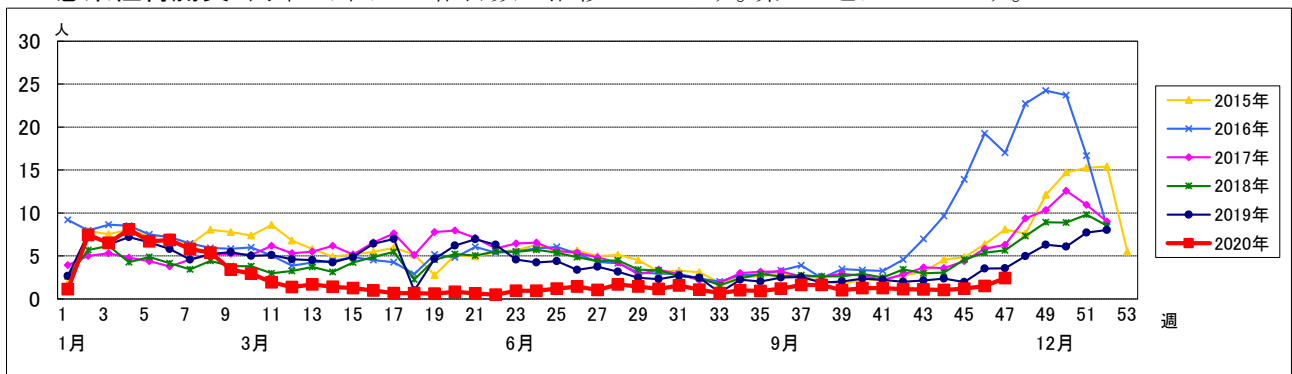
◇ 定点把握の対象:

報告週対応表	
第43週	10月19日～10月25日
第44週	10月26日～11月1日
第45週	11月2日～11月8日
第46週	11月9日～11月15日
第47週	11月16日～11月22日

1 インフルエンザ: 昨年は第40週で流行開始の目安(1.00)を上回っていましたが、今年は例年より低めの報告数で推移しており、第47週は0.01です。



2 感染性胃腸炎: 例年より低めの報告数で推移しています。第47週は2.42です。



3 性感染症(10月)

性器クラミジア感染症	男性:23件	女性:13件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性:2件	女性:6件
尖圭コンジローマ	男性:0件	女性:3件	淋菌感染症	男性:16件	女性:1件

4 基幹定点週報

	第43週	第44週	第45週	第46週	第47週
細菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00	...
無菌性髄膜炎	0.33	0.00	0.33	0.00	...
マイコプラズマ肺炎	0.00	0.00	0.00	0.00	...
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00	...
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	0.00	0.00	0.33	0.00	...

....:未報告

5 基幹定点月報(10月)

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	5件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0件
薬剤耐性緑膿菌感染症	0件	-	-

この報告とデータの詳細については、下記に掲載されていますので、ご参照ください。  
 横浜市衛生研究所ホームページ URL: <https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryo/eiken/>



# 令和2年12月期 横浜市感染症発生動向調査委員会報告

## 《今月のトピックス》

- 新型コロナウイルス感染症の報告が増加しています。
- インフルエンザ・感染性胃腸炎は例年より報告数が少ないです。

### ◇ 全数把握の対象

#### 〈12月期に報告された全数把握疾患〉

腸管出血性大腸菌感染症	2件	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1件
E型肝炎	1件	後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)	4件
つつが虫病	1件	侵襲性肺炎球菌感染症	4件
レジオネラ症	2件	水痘(入院例に限る)	1件
アメーバ赤痢	2件	梅毒	16件
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	3件	百日咳	2件
クロイツフェルト・ヤコブ病	1件	-	-

- 腸管出血性大腸菌感染症: O26が2件(うち1件が無症状病原体保有者)の報告がありました。
- E型肝炎: 無症状病原体保有者1件の報告がありました。感染経路等不明です。
- つつが虫病: 1件の報告がありました。神奈川県内での感染が推定されています。
- レジオネラ症: 肺炎型2件の報告がありました。水系感染が推定されています。
- アメーバ赤痢: 腸管アメーバ症の報告が2件ありました。いずれも感染経路等不明です。
- カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症: 3件の報告がありました。いずれも感染経路等不明です。
- クロイツフェルト・ヤコブ病: 古典型CJDの報告が1件ありました。
- 劇症型溶血性レンサ球菌感染症: G群1件の報告がありました。感染経路等不明です。
- 後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む): 無症状病原体保有者2件、その他2件の報告がありました。いずれも男性で、感染経路はいずれも性的接触(同性間3件、異性間および同性間1件)でした。
- 侵襲性肺炎球菌感染症: 60歳代の報告が2件、70歳代の報告が2件ありました。感染経路等不明です。
- 水痘(入院例に限る): 40歳代の検査診断例の報告が1件ありました。
- 梅毒: 無症状病原体保有者4件、早期顕症梅毒Ⅰ期7件、早期顕症梅毒Ⅱ期5件の報告がありました。性別は男性13件、女性3件で、感染経路は性的接触による感染が15件(異性間9件、同性間2件、詳細不明3件)、不明2件でした。
- 百日咳: 10歳未満1件(ワクチン接種歴4回あり)、10歳代1件(ワクチン接種歴不明)の報告がありました。

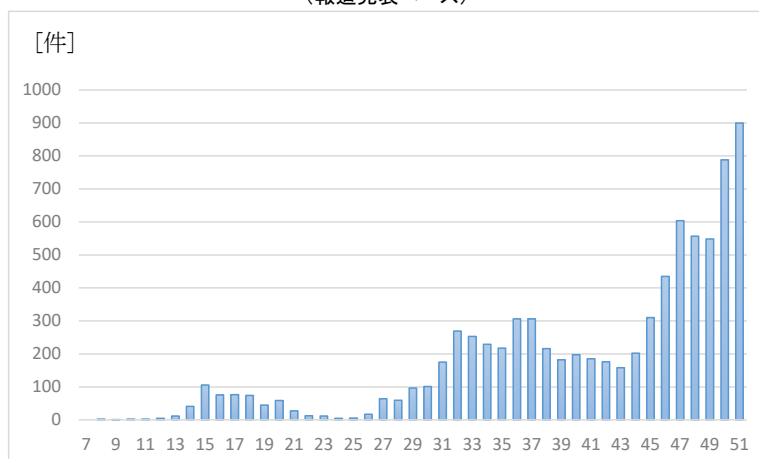
### ◇ 指定感染症(新型コロナウイルス感染症)

第47週～第51週に横浜市から報道発表のありました症例は3396件でした。

横浜市内の新型コロナウイルスに感染した患者の発生状況

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryō/yobosesshu/kansensho/coronavirus/kanja.html>

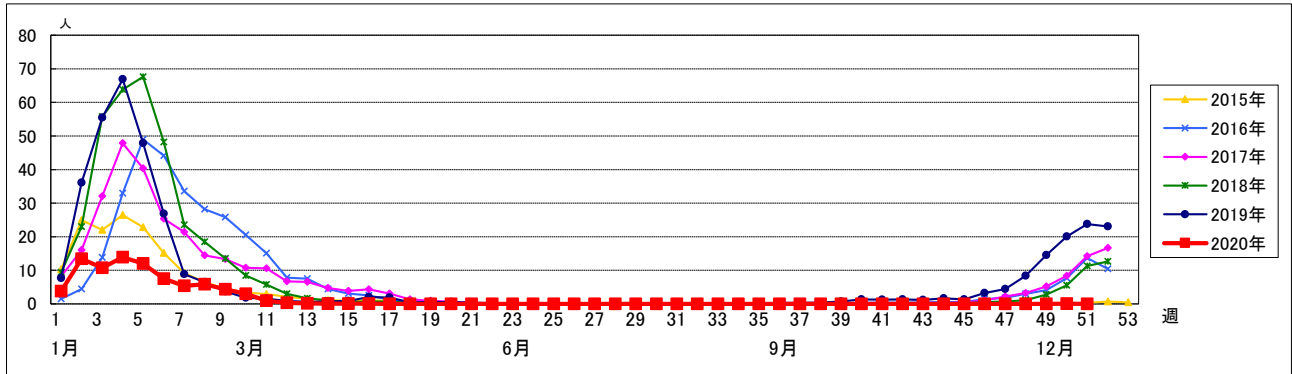
新型コロナウイルス感染症報告数  
(報道発表ベース)



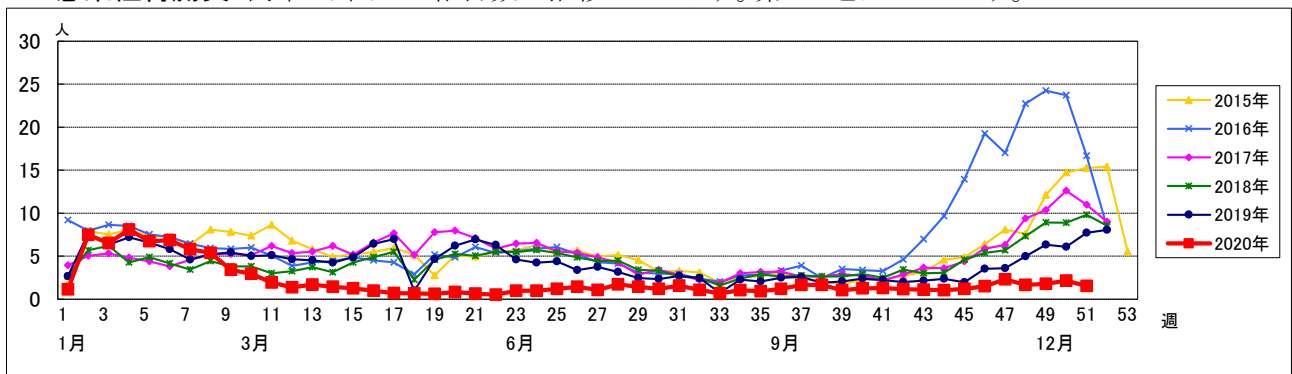
◇ 定点把握の対象:

報告週対応表	
第47週	11月16日～11月22日
第48週	11月23日～11月29日
第49週	11月30日～12月6日
第50週	12月7日～12月13日
第51週	12月14日～12月20日

1 インフルエンザ: 昨年は第40週で流行開始の目安(1.00)を上回り、第49週には流行注意報発令されましたが、今年は例年より低めの報告数で推移しており、第51週は0.02です。



2 感染性胃腸炎: 例年より低めの報告数で推移しています。第51週は1.51です。



3 性感染症(11月)

性器クラミジア感染症	男性:26件	女性:18件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性: 2件	女性:11件
尖圭コンジローマ	男性: 0件	女性: 4件	淋菌感染症	男性: 7件	女性: 2件

4 基幹定点週報

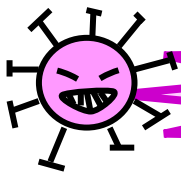
	第47週	第48週	第49週	第50週	第51週
細菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
無菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
マイコプラズマ肺炎	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

5 基幹定点月報(11月)

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	10件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0件
薬剤耐性緑膿菌感染症	0件	-	-

この報告とデータの詳細については、下記に掲載されていますので、ご参照ください。  
 横浜市衛生研究所ホームページ URL: <https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryuo/eiken/>





# 感染症に気をつけよう!

2020年【1月号】

## 横浜市内の感染症 流行状況



感染症**	流行状況		説明【解説付き既刊号】
インフルエンザ*	注意報	増加	12月上旬に注意報が発令され、さらに増加中です。重症例も報告されています。【'19.12号】
A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎**	流行	増加	冬に入り増加していますが、例年に比べて多く報告されています。【'18.4号】

## 今、気をつけたい感染症 インフルエンザ



### ■ インフルエンザの特徴は...

38℃以上の発熱・頭痛・関節痛・筋肉痛・全身倦怠感などの症状が急に出ることです。

### ■ かかったかな!と思ったら...

マスクを着けるなど咳エチケット\*を守り、早目に受診しましょう。



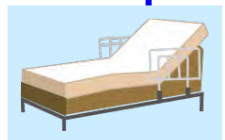
### ■ 子ども・高齢者・妊婦・持病のある人は...

症状が重くなりやすいので、特に注意が必要です。肺炎や脳症等の重い合併症が現れ、入院治療を必要とする場合もあります。

### ■ 重症化のサインは...

次のような症状です。すぐに受診してください。

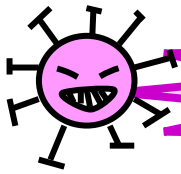
- ✓ 呼びかけに答えない
- ✓ 呼吸が早く息苦しい
- ✓ 胸の痛みが続く
- ✓ 症状が長引き悪化する



参考ホームページ \*：厚生労働省 \*\*：国立感染症研究所

横浜市衛生研究所 感染症・疫学情報課【横浜市感染症情報センター】

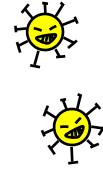




# 感染症に気をつけよう!

2020年【2月号】

## 横浜市内の感染症 流行状況



感染症**	流行状況		説明【解説付き既刊号等】
インフルエンザ*	注意報	横ばい	12月初めに流行注意報が発令されました。その後、報告数は横ばいです。【'20.1号】
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎**	発生	増加	冬に入り増加していました。例年に比べて、報告数が多い状態で推移しています。【'18.4号】
感染性胃腸炎*	発生	増加	例年と同じく、冬に増加しています。保育園などでの集団発生もみられます。【'16.12号】【ちらし】

参考ホームページ \*：厚生労働省 \*\*：国立感染症研究所 横浜市衛生研究所 横浜市感染症情報センター



## 今、気をつけたい感染症 新型コロナウイルス感染症



感染を防ぐためには  
【こまめな手洗い】  
【手指のアルコール消毒】  
【咳エチケット】\* といった  
基本的な予防対策  
が有効です。

厚生労働省電話相談窓口  
電話番号 0120-565653  
受付時間 9時~21時  
厚生労働省ホームページQ&A



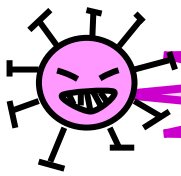
### 3つの正しい咳エチケット

1. マスクを着用する。
2. ティッシュ・ハンカチなどで口や鼻を覆う。
3. 上着の内側や袖（そで）で覆う。



横浜市保健所  
【新型コロナウイルス感染症について】









# 感染症に気をつけよう!

2020年【3月号】

## 横浜市内の感染症 流行状況

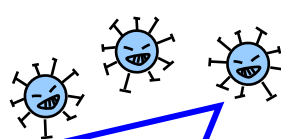
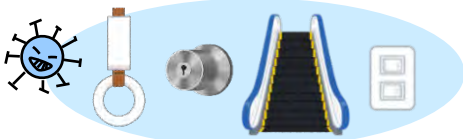


感染症 **	流行状況		説明【解説付き既刊号等】
インフルエンザ *	 流行	 減少	2月上旬に注意報が解除されて以降、減少中ですが、まだ流行レベルの報告数です。【'20.1号】
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 **	 発生	 横ばい	昨年の冬から、例年に比べて報告数が多い状態が続いています。【'18.4号】

参考ホームページ \*：厚生労働省 \*\*：国立感染症研究所 横浜市衛生研究所  
横浜市感染症情報センター(3月12日更新)



## 今、気をつけたい感染症 新型コロナウイルス感染症



▶ 電車やバスのつり革、ドアノブ、エスカレーターの手すり、スイッチなどは、**不特定多数の人が使う物**です。感染している人が触って、それらにウイルスが付着しているかもしれません。

▶ それらの物に触れてウイルスが付いた手で、**目・鼻・口の粘膜に触れると、ウイルスが体内に入り、感染**してしまう可能性があります。注意しましょう!

▶ **帰宅時・調理の前後・食事前などに、せっけんで手を洗って感染(接触感染)を防ぎましょう!**



▶ **体力が低下すると感染しやすくなり、また、感染した時に症状が重くなってしまう恐れがあります。よく眠り、バランスよく食べて、体調を管理しておきましょう!**

▶ **咳等の症状がある場合は、他の人に感染(飛沫感染)を広げないように、咳エチケット\*を守りましょう!**

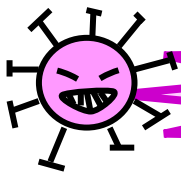
厚生労働省  
【新型コロナウイルスに関するQ&A】



横浜市保健所  
【新型コロナウイルス感染症対策】







# 感染症に気をつけよう!

2020年【4月号】

## 横浜市内の感染症 流行状況



感染症**	流行状況		説明【解説付き既刊号等】
新型コロナウイルス感染症	★発生	➡増加	市内でも報告が続いています。 【患者発生状況(記者発表事例)】['20.3号]
インフルエンザ*	★散発	➡減少	B型を中心に報告されていましたが、3月中旬に流行の目安の報告数を下回りました。['20.1号]

参考ホームページ \*：厚生労働省 \*\*：国立感染症研究所 横浜市衛生研究所  
横浜市感染症情報センター



## 今、気をつけたい感染症 新型コロナウイルス感染症

換気の悪い  
密閉空間!



■ 3つの条件が同時に重なる場所では、**クラスター(患者集団)発生**の危険性が高くなります!

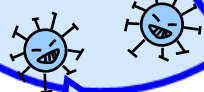
■ 例えば・・・  
カラオケ・ライブハウス・スポーツジム・屋形船・懇親会・合唱やダンスのサークル など



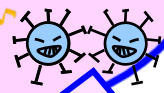
■ **3つの密**(密閉・密集・密接の重なるところ)を避けましょう!

■ 自分が感染する危険性を下げるだけでなく、**多くの人の重症化を食い止め、命を救う**ことにつながります!

多くの人が集まる  
密集場所!



互いに手を伸ばしたら届く距離で  
会話や発声をする **密接場面!**

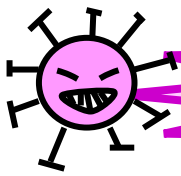


厚生労働省  
【新型コロナウイルスに関するQ&A】



横浜市保健所  
【新型コロナウイルス感染症対策】





# 感染症に気をつけよう!

2020年【5月号】

## 横浜市内の感染症 流行状況



感染症 **	流行状況		説明【解説付き既刊号等】
新型コロナウイルス感染症 **	発生	横ばい	市内でも報告が続いています。 【患者発生状況(記者発表事例)】['20.4号]
感染性胃腸炎 *	散発	減少	冬に入り増加していました。1月の下旬以降は減少し、例年に比べ少ない状態です。【'16.12号】

参考ホームページ \*：厚生労働省 \*\*：国立感染症研究所 横浜市衛生研究所  
横浜市感染症情報センター



## 今、気をつけたい感染症 新型コロナウイルス感染症

知らないうちに、拡めちゃうから。



誰もが  
感染するリスク  
誰でも  
感染させるリスク  
があります!

あなたと身近な人の命  
を守れるよう  
日常生活を見直して  
みましょう!

### 人との接触を8割減らす、10のポイント

- 1 ビデオ通話で  
オンライン帰省
- 2 スーパーは1人  
または少人数で  
すいている時間に
- 3 ジョギングは  
少人数で  
公園はすいた時間、  
場所を選ぶ
- 4 待てる買い物は  
通販で
- 5 飲み会は  
オンラインで
- 6 診療は遠隔診療  
定期受診は間隔を調整
- 7 筋トレやヨガは  
自宅で動画を活用
- 8 飲食は  
持ち帰り、  
宅配も
- 9 仕事は在宅勤務  
通勤は医療・インフラ・  
物流など社会機能維持  
のために
- 10 会話は  
マスクをつけて

#### 3つの密を避けましょう

1. 換気の悪い密閉空間
2. 多数が集まる密集場所
3. 間近で会話や発声をする密接場面

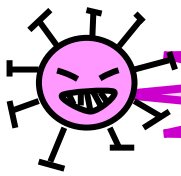
手洗い・  
咳エチケット・  
換気や、健康管理  
も、同様に重要です。

厚生労働省  
【新型コロナウイルスに関するQ&A】



横浜市保健所  
【新型コロナウイルス感染症対策】






# 感染症に気をつけよう!

2020年【6月号】

## 横浜市内の感染症 流行状況



感染症**	流行状況		説明【解説付き既刊号等】
新型コロナウイルス感染症**	 発生	 やや減少	市内でも報告が続いています。 【患者発生状況(記者発表事例)】['20.5号]
小児科定点医療機関からの報告*	 発生		咽頭結膜熱(プール熱)やA群溶血性レンサ球菌咽頭炎など、例年に比べて少ない報告数です。

参考ホームページ \*：厚生労働省 \*\*：国立感染症研究所 横浜市衛生研究所  
横浜市感染症情報センター



## 今、気をつけたい感染症 新型コロナウイルス感染症



外出控え



密集回避



密接回避



密閉回避



換気



咳エチケット



手洗い

### ■ 感染防止の3つの基本

①身体的距離の確保 ②マスクの着用 ③手洗いや、「3密(密集・密接・密閉)」を避ける等の対策を、生活に取り入れることが大事です。



■ この夏は、今までとは違う生活環境になるので、例年以上に熱中症にも注意\*しましょう!

■ 冷房を使っている時でも、換気扇や窓の開放で換気する必要があります。

■ その場合、室温が高くなるので、熱中症予防のためにエアコンの温度設定をこまめに調整しましょう!

■ 気温・湿度が高い中でマスクを着けると、熱中症のリスクが高くなる恐れがあります。  
■ 屋外でマスクをはずす場合は、人との距離を少なくとも2m以上取りましょう!



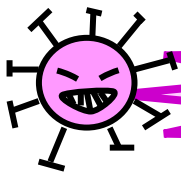
厚生労働省  
【新型コロナウイルスに関するQ&A】



横浜市保健所  
【新型コロナウイルス感染症対策】



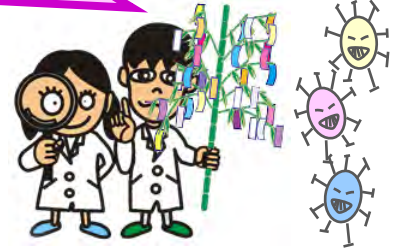









# 感染症に気をつけよう!

2020年【7月号】

## 横浜市内の感染症 流行状況



感染症 **	流行状況		説明【解説付き既刊号等】
腸管出血性 大腸菌感染症 *	 発生	 増加	6月から報告が増えています。例年、初夏から初秋にかけて多く報告されます。【'19.9号】【ちらし】
小児科定点医療機関 からの報告 *	 発生		咽頭結膜熱(プール熱)やA群溶血性レンサ球菌咽頭炎など、例年に比べて少ない報告数です。
新型コロナウイルス 感染症 **	 発生	 やや減少	市内でも報告が続いています。 【患者発生状況(記者発表事例)】【'20.6号】

参考ホームページ \*:厚生労働省 \*\*:国立感染症研究所 横浜市衛生研究所  
横浜市感染症情報センター



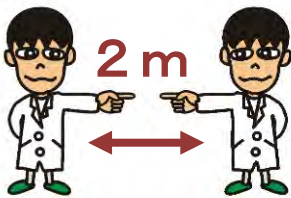
## 今、気をつけたい感染症 新型コロナウイルス感染症



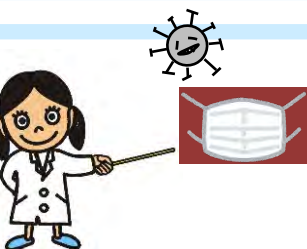
知らないうちに、拡めちゃうから。



- ◆ 一般的に、肺炎などを起こすウイルス感染症の場合は、症状が最も強く現れる時期に、他の人へウイルスを感染させる可能性も最も高くなると考えられています。
- ◆ しかし、**新型コロナウイルスでは、症状が明らかになる前から、感染が広がる恐れがある**とされています。自分が感染しているかもしれないと考えて、周りの人への配慮を心掛けましょう。



- ◆ 人と人との距離をとること、マスクの着用、咳エチケットなどの対策が大切です。
- ◆ **人との間隔は、できるだけ2m(最低1m)空けます。**
- ◆ 外出時や室内でも会話をする時、人との間隔が十分とれない場合は、**症状がなくてもマスク**を着用してください。
- ◆ ただし、夏に気温・湿度が高い環境でマスクを着けると、**熱中症のリスク**が高まります。屋外で人と十分な距離が保てる場合には、マスクをはずすようにしましょう。

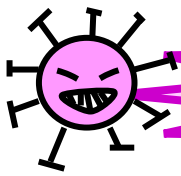


厚生労働省  
【新型コロナウイルスに関するQ&A】



横浜市保健所  
【新型コロナウイルス感染症対策】










# 感染症に気をつけよう!

2020年【8月号】

## 横浜市内の感染症 流行状況



感染症 **	流行状況		説明【解説付き既刊号等】
腸管出血性 大腸菌感染症 *	 発生	 横ばい	6月から報告が増えました。例年、初夏から初秋にかけて多く報告されます。【'19.9号】【ちらし】
新型コロナウイルス 感染症 **	 発生	 増加	市内でも報告が続いています。 【患者発生状況(記者発表事例)】【'20.7号】
小児科定点医療機関 からの報告 *	 発生		例年、夏に流行する手足口病・ヘルパンギーナ・咽頭結膜熱(プール熱)は報告数が少ないです。

参考ホームページ \*:厚生労働省 \*\*:国立感染症研究所 横浜市衛生研究所  
横浜市感染症情報センター



## 今、気をつけたい感染症 新型コロナウイルス 感染症



- 外出先からの帰宅時・調理の前後・食事前など、こまめに手を洗いましょう!
- 感染している人がくしゃみや咳を手で押さえた後、その手でドアノブや電車のつり革など、周りの物に触れるとウイルスが付きます。
- ▶ 他の人がそれらの物に触るとウイルスが手に付着し、その手で目・鼻・口に触ると、粘膜からウイルスが体内に入り感染(接触感染)してしまう可能性があります。

- 洗っていない手で、目・鼻・口などを触らないように気をつけましょう!
- 人は無意識に顔を触っています。
- ▶ その頻度について\*は、1時間に平均23回、そのうち目・鼻・口などの粘膜は約44パーセントを占めているとの報告があります。

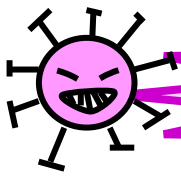
厚生労働省  
【新型コロナウイルスに関するQ&A】



横浜市保健所  
【新型コロナウイルス感染症対策】













# 感染症に気をつけよう!

2020年【9月号】

## 横浜市内の感染症 流行状況



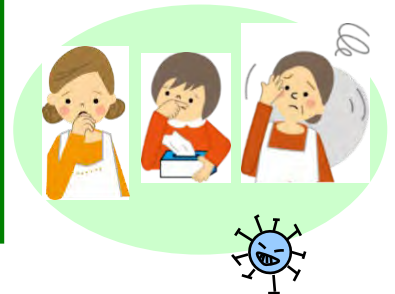
感染症 **	流行状況		説明【解説付き既刊号等】
腸管出血性 大腸菌感染症 *	 発生	 横ばい	6月から報告が増えています。例年、初夏から初秋にかけて多く報告されます。【'19.9号】【ちらし】
新型コロナウイルス 感染症 **	 発生	 横ばい	市内でも報告が続いています。 【患者発生状況(記者発表事例)】【'20.8号】
梅毒 *	 発生	 横ばい	報告数が比較的多い状態が、続いています。

参考ホームページ \*:厚生労働省 \*\*:国立感染症研究所 横浜市衛生研究所  
横浜市感染症情報センター



## 今、気をつけたい感染症 新型コロナウイルス感染症

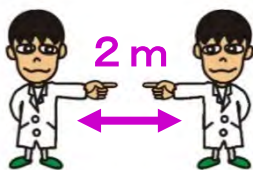
- 一般的には、ウイルスを含む飛沫(くしゃみ、咳、つばなど)を口や鼻などから吸い込む飛沫感染、ウイルスが付いた手で口、鼻や目の粘膜に触れる接触感染で感染します。
- このため、予防には次の3つの基本的な対策\*が大事です。



●①● 飛沫を吸い込まないように、**人との距離**を、できるだけ2m(最低1m)空けましょう!

●②● 会話をする時は**マスク**を着けましょう!(ただし、熱中症に注意して、屋外で人と十分な距離が保てる場合には、マスクをはずすようにしてください。)

●③● 手指のウイルスを、水と石けんで30秒程度かけて、**しっかり洗い流**しましょう!

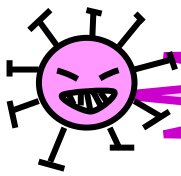


厚生労働省  
【新型コロナウイルスに関するQ&A】



横浜市保健所  
【新型コロナウイルス感染症対策】









# 感染症に気をつけよう!

2020年【10月号】



## 横浜市内の感染症 流行状況

感染症 **	流行状況		説明【解説付き既刊号等】
腸管出血性 大腸菌感染症 *	 発生	 横ばい	6月以降、無症状の場合も含め、ほぼ一定数の患者が報告されています。【'19.9号】【ちらし】
新型コロナウイルス 感染症 **	 発生	 横ばい	市内でも報告が続いています。 【患者発生状況(記者発表事例)】【'20.9号】

参考ホームページ \*:厚生労働省 \*\*:国立感染症研究所 横浜市衛生研究所  
横浜市感染症情報センター



## 今、気をつけたい感染症 冬の感染症



- 気温が低く乾燥している冬は… 風邪、インフルエンザやノロウイルスなど、感染症が流行しやすい季節です。
- また、今シーズンは新型コロナウイルス感染症の流行も心配されています。



- 感染症の種類は違っても… 基本的な予防対策は同じです。
- 感染(飛沫感染・接触感染)の経路を断つために、咳エチケット\*やこまめな手洗い\*をしっかりと行いましょう。
- 十分な睡眠とバランスの良い食事を心がけて、免疫力を高めておくことも大切です。



- インフルエンザの予防\*には… ワクチンもあります。
- インフルエンザワクチンは、接種すれば絶対にかからないというものではありませんが、発病の予防や、発病後の重症化に関しては、一定の効果があるとされています。接種について、かかりつけ医に相談しましょう。  
(横浜市では、年内、高齢者インフルエンザ予防接種が無料になります。)

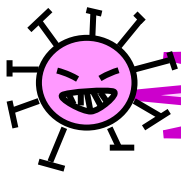


厚生労働省  
【新型コロナウイルスに関するQ&A】



横浜市保健所  
【新型コロナウイルス感染症対策】









# 感染症に気をつけよう!

2020年【11月号】



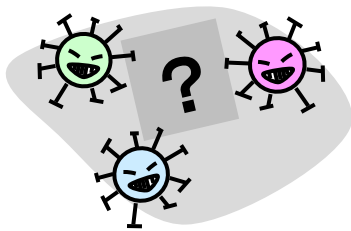
## 横浜市内の感染症 流行状況

感染症 **	流行状況		説明【解説付き既刊号等】
腸管出血性 大腸菌感染症 *	 発生	 横ばい	6月以降、無症状の場合も含め、ほぼ一定数の患者が報告されています。【'19.9号】【ちらし】
新型コロナウイルス 感染症 **	 発生	 横ばい	市内でも報告が続いています。 【患者の発生状況】['20.10号]

参考ホームページ \*:厚生労働省 \*\*:国立感染症研究所 横浜市衛生研究所  
横浜市感染症情報センター



## 今、気をつけたい感染症 新型コロナウイルス感染症

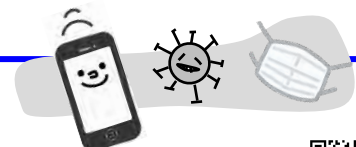


■ 新型コロナウイルス感染症と、例年流行しているインフルエンザや風邪などの感染症とは、**症状だけから判断することは難しい**です。

- 皆さんが受診する医療機関では、このどちらの場合でも診察できるように、**特別な対応が必要**になっています。
- 診察前の準備や、その他の症状で受診する患者さんと来院時間を分けるための調整などです。



- 発熱・咳・のどの痛み・全身倦怠感等の症状がある時は、**受診する前に必ず医療機関へ電話**で連絡してください。
- この冬のインフルエンザ流行期に備えるために、ご協力をお願いします。



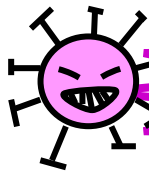
厚生労働省  
【新型コロナウイルスに関するQ&A】



横浜市保健所  
【新型コロナウイルス感染症対策】





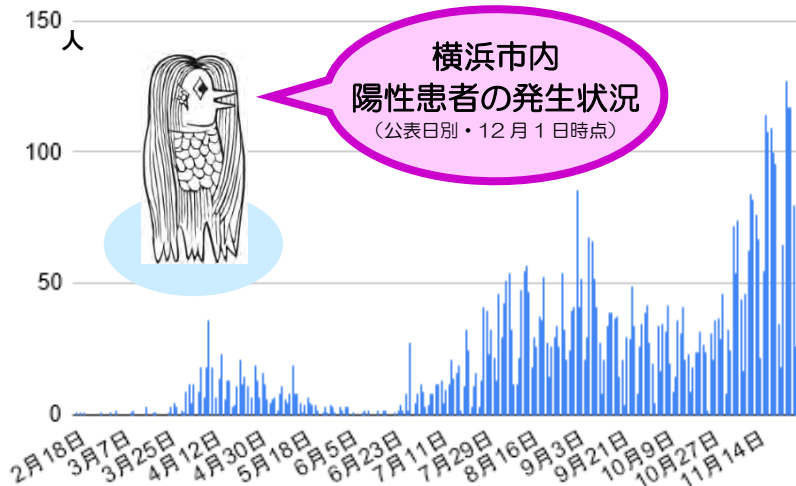


# 感染症に気をつけよう!

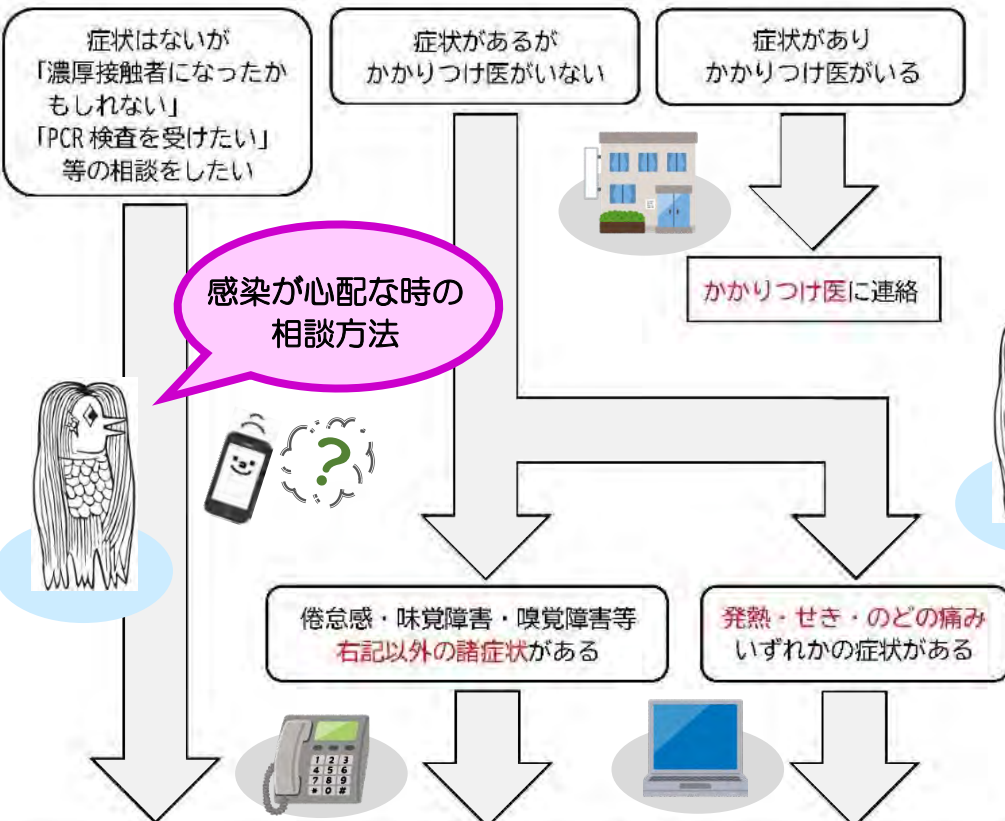
2020年【12月号】

横浜市感染症情報センター

## 今、気をつけたい感染症 新型コロナウイルス感染症



- ① 飲酒を伴う懇親会等
  - ② 大人数や長時間におよぶ飲食
  - ③ マスクなしでの会話
  - ④ 狭い空間での共同生活
  - ⑤ 居場所の切り替わり
- (参照:内閣官房ウェブサイト)



横浜市新型コロナウイルス感染症コールセンター（帰国者・接触者相談センター）に連絡（24時間対応）  
 電話：045-550-5530  
 FAX：045-846-0500

神奈川県発熱等診療予約センターに連絡（9時～21時）  
 0570-048914 または  
 045-285-1015

これらに関わらず（特に夜間・休日）症状が重い 徐々に悪化している 等緊急の場合  
 → 119（救急車を依頼）

厚生労働省  
 【新型コロナウイルスに関するQ&A】



横浜市保健所  
 【新型コロナウイルス感染症対策】



横浜市感染症発生動向調査事業概要  
2020年(令和2年)

横浜市健康福祉局 衛生研究所 感染症・疫学情報課  
2021年12月発行

〒236-0051 横浜市金沢区富岡東二丁目7番1号  
Tel 045(370)9237  
Fax 045(370)8462

紙へリサイクル可